

# 令和4年度 伊那市男女共同参画に関する市民意識調査報告書

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

- (1) 第4次伊那市男女共同参画計画に基づく施策の推進状況の把握と、今後の施策推進の資料とするため。
- (2) 性の多様性に関する取組の基礎資料とするため。

### 2 調査対象

令和4年8月1日現在、伊那市に在住する20歳以上の男女各500名（計1,000人）を年代別均等に無作為抽出

### 3 調査期間

令和4年8月10日から令和4年9月16日

### 4 調査方法

郵送による配布・回収

### 5 回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
1,000通	417通	41.7%

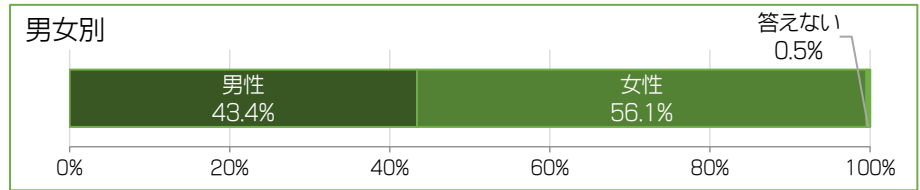
### 6 調査結果の表示方法

- 回答率（割合（%））は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表記しました。このため、回答率の合計が100にならない場合があります。
- 複数回答方式（マルチ回答）の設問では、回答率（割合（%））は回答者総数に対する回答数の割合を示しています。したがって、回答率の合計は100になりません。同様に、回答数の合計は回答者総数とは一致しません。

## 回答者の属性

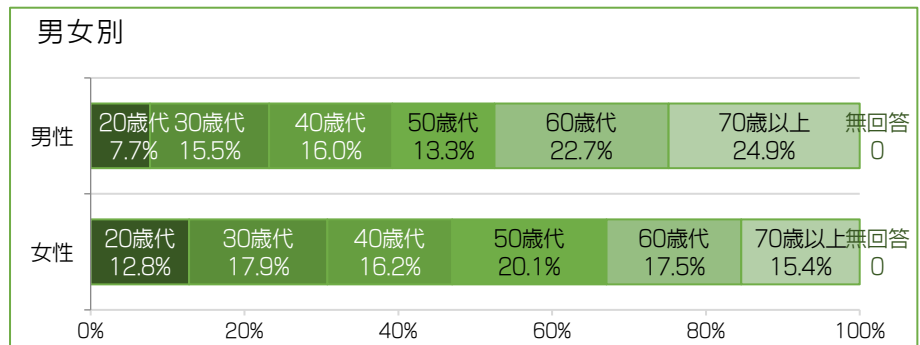
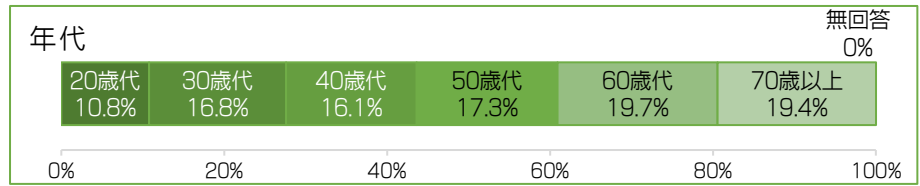
【性別】（戸籍上の区分とは別に、自身の主観により記入）

	回答数
男性	181
女性	234
その他	0
答えない	2
計	417



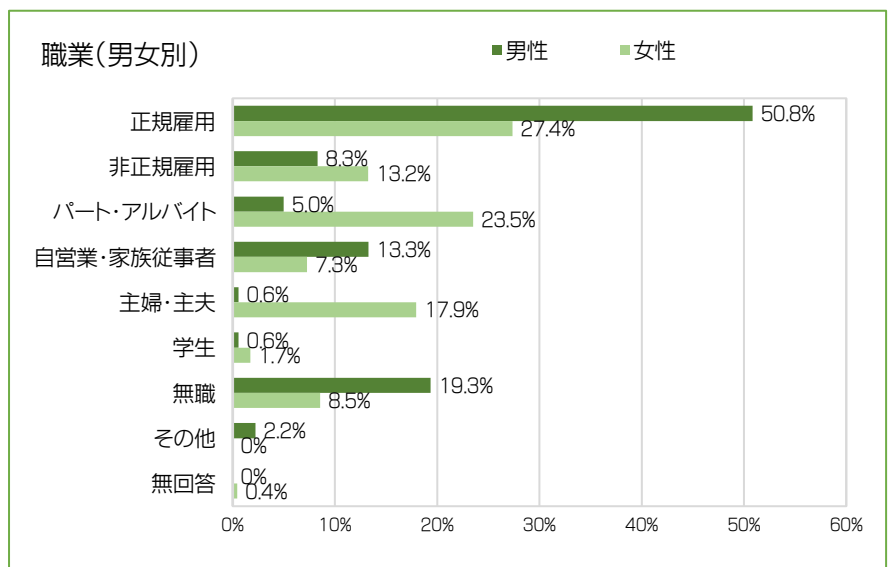
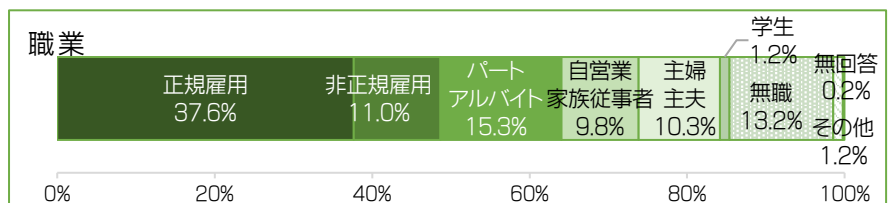
【年代】

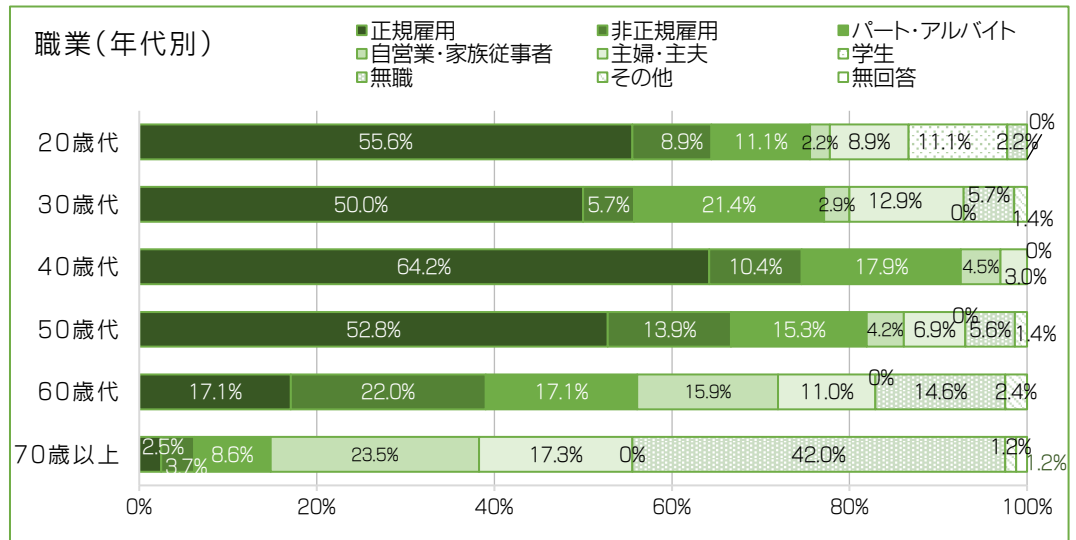
	回答数
20 歳代	45
30 歳代	70
40 歳代	67
50 歳代	72
60 歳代	82
70 歳以上	81



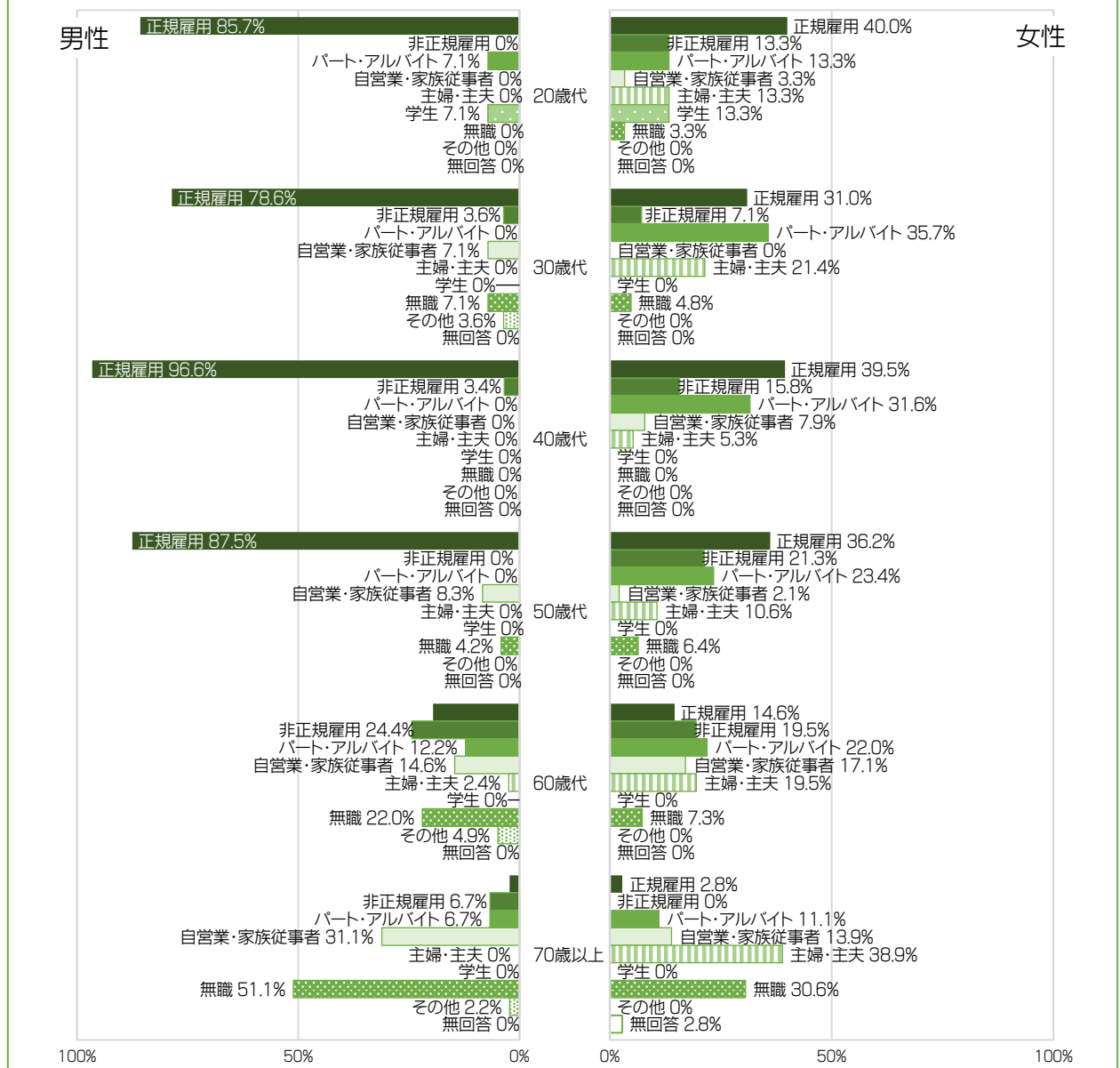
【主たる職業】

	回答数
正規雇用の会社員・公務員・団体職員	157
非正規雇用の会社員・公務員・団体職員	46
パート・アルバイト	64
自営業・家族従事者	41
主婦・主夫	43
学生	5
無職	55
その他	5
無回答	1





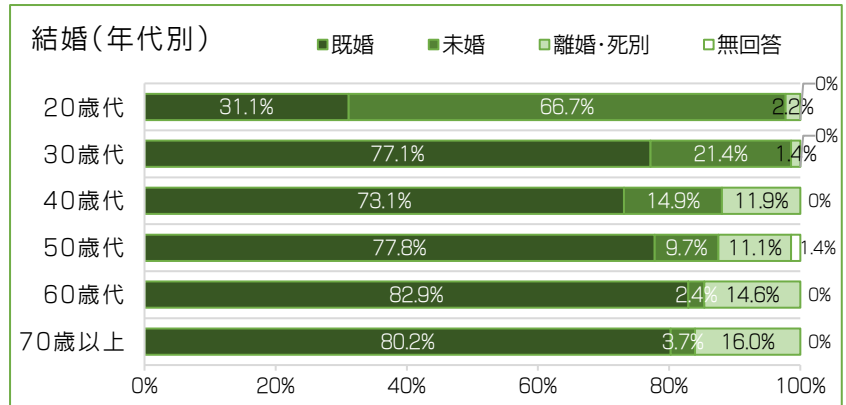
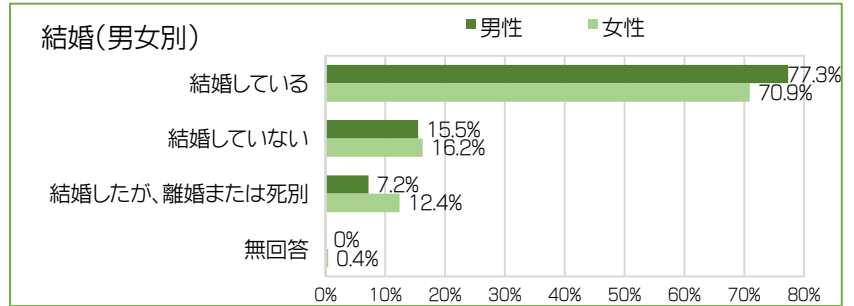
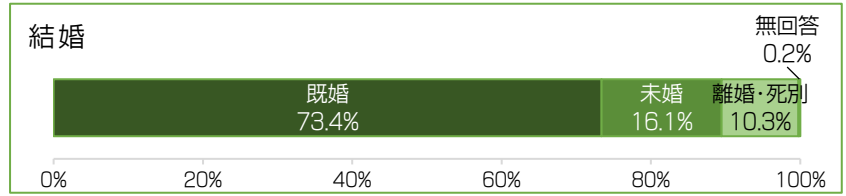
### 参考 職業(男女・年代別)



男女別では、「男性」では「正規雇用者（会社員、公務員などの給与所得者）」が50.8%であるのに対し、「女性」では27.4%です。また年齢別では、「20歳～50歳代」では「正規雇用者」が、「60歳代」では「非正規雇用」「パート・アルバイト」が、「70歳以上」では「無職」がそれぞれ最も多くなっています。

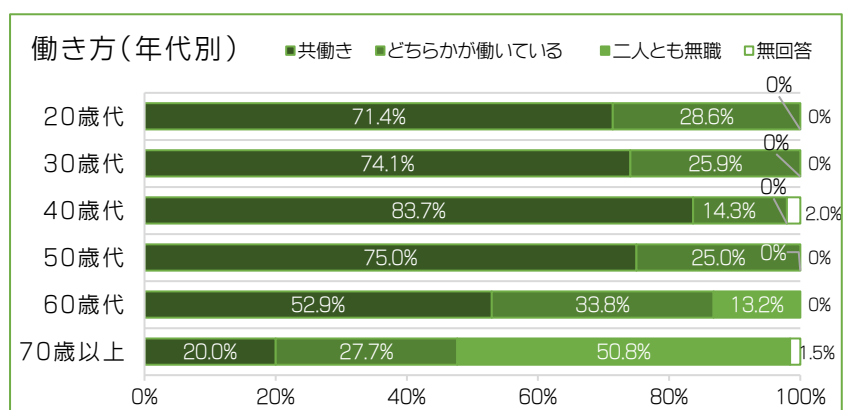
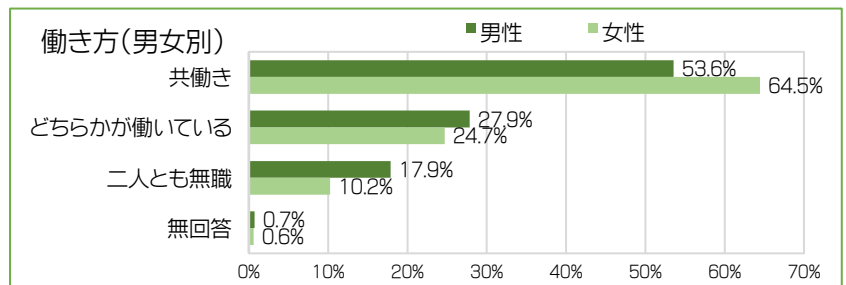
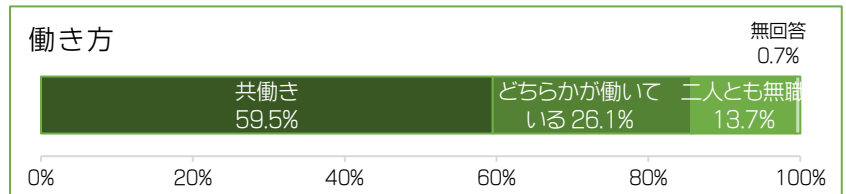
【結婚（事実婚またはパートナーと同居を含む）】

	回答数
結婚している	306
結婚していない	67
結婚したが、離婚または死別	43
無回答	1



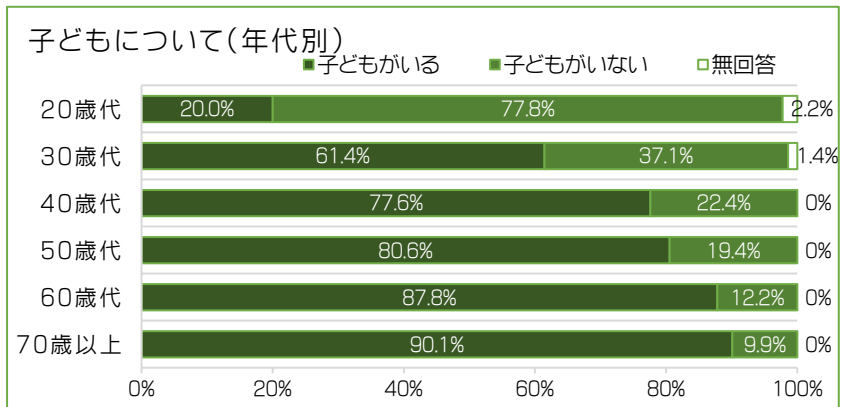
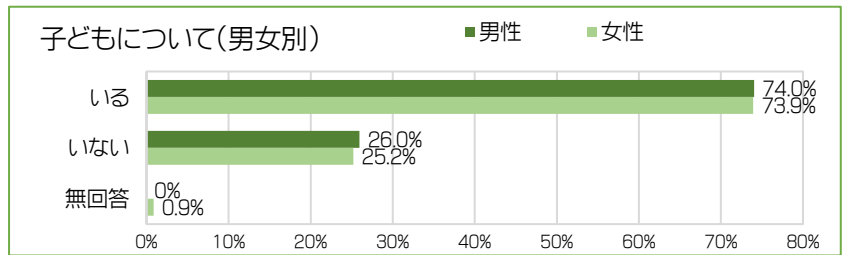
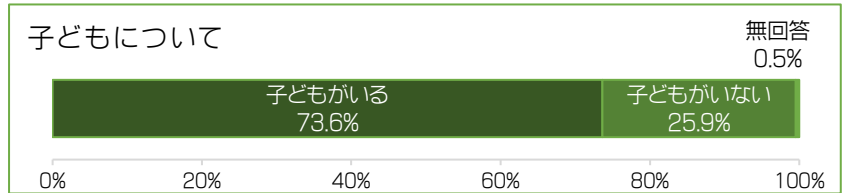
【結婚している人について】  
働き方

	回答数
共働き	182
どちらかが働いている	80
二人とも無職	42
無回答	2



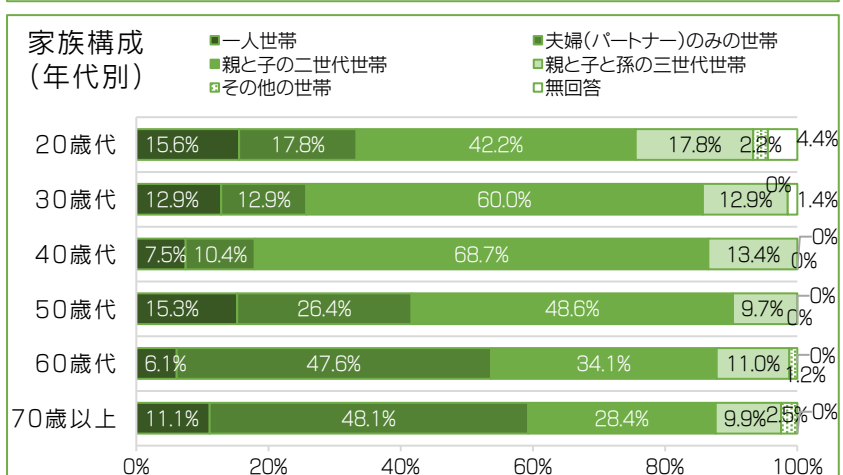
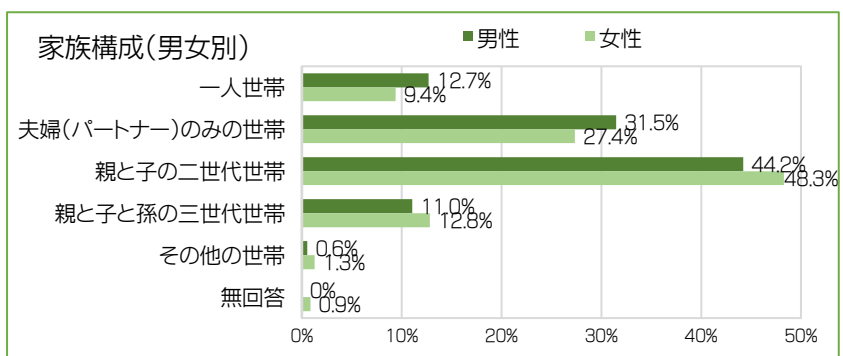
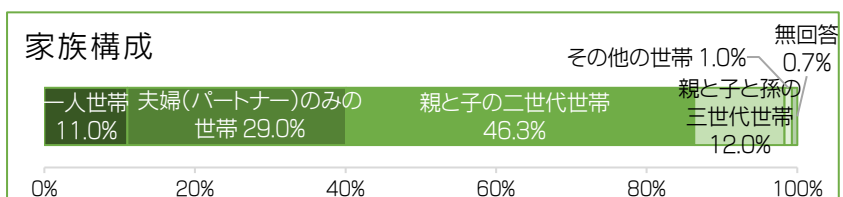
### 【子どもの有無】

	回答数
いる	307
いない	108
無回答	2



### 【家族構成】

	回答数
一人世帯	46
夫婦（パートナー）のみの世帯	121
親と子の二世帯世帯	193
親と子と孫の三世帯世帯	50
その他の世帯	4
無回答	3



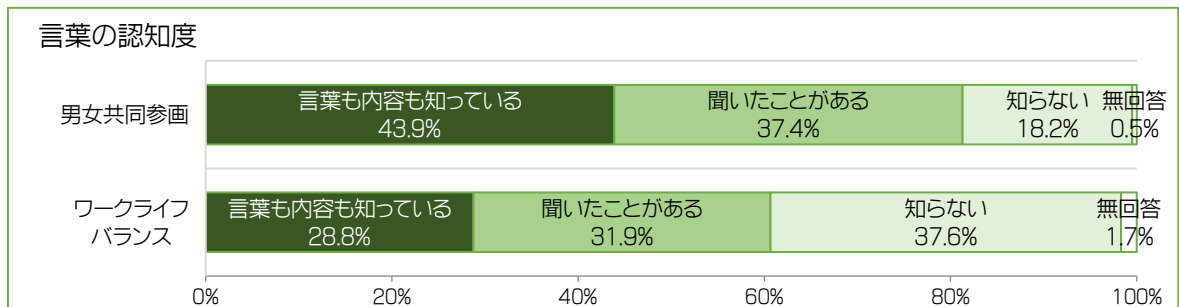
## 言葉の認知度

次の言葉について、知っているまたは聞いたことがあるか。

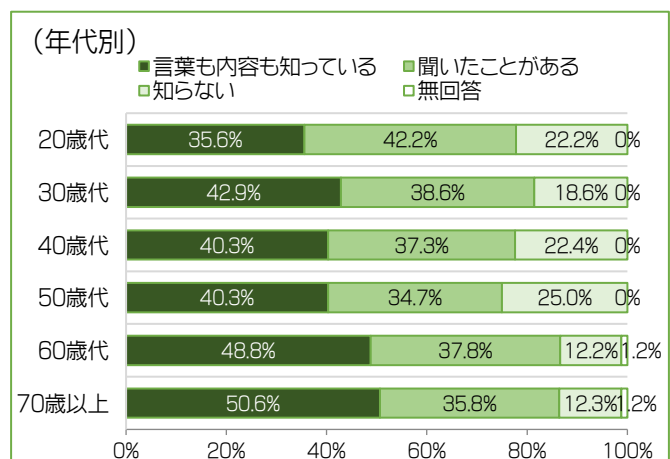
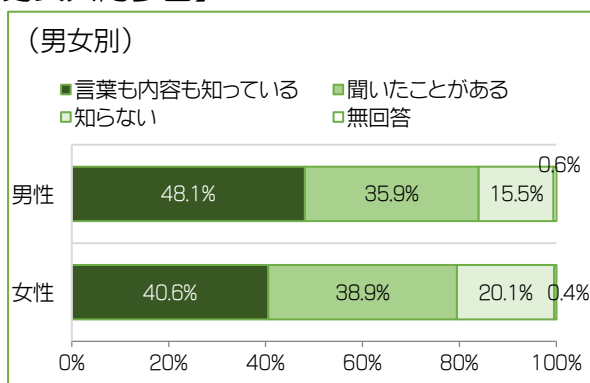
【第4次男女共同参画計画 効果指標】

(回答数)

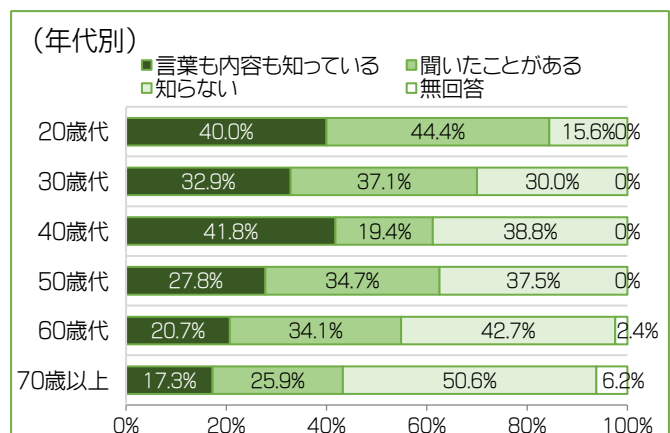
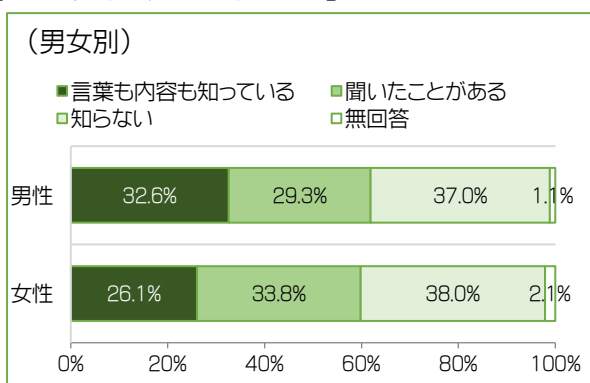
	言葉も内容も知っている	聞いたことがある	知らない	無回答
男女共同参画	183	156	76	2
ワークライフバランス	120	133	157	7



### 【男女共同参画】



### 【ワークライフバランス】



「男女共同参画」については、「男女別」「年代別」共に4割以上の方が「言葉も内容も知っている」と回答しています。

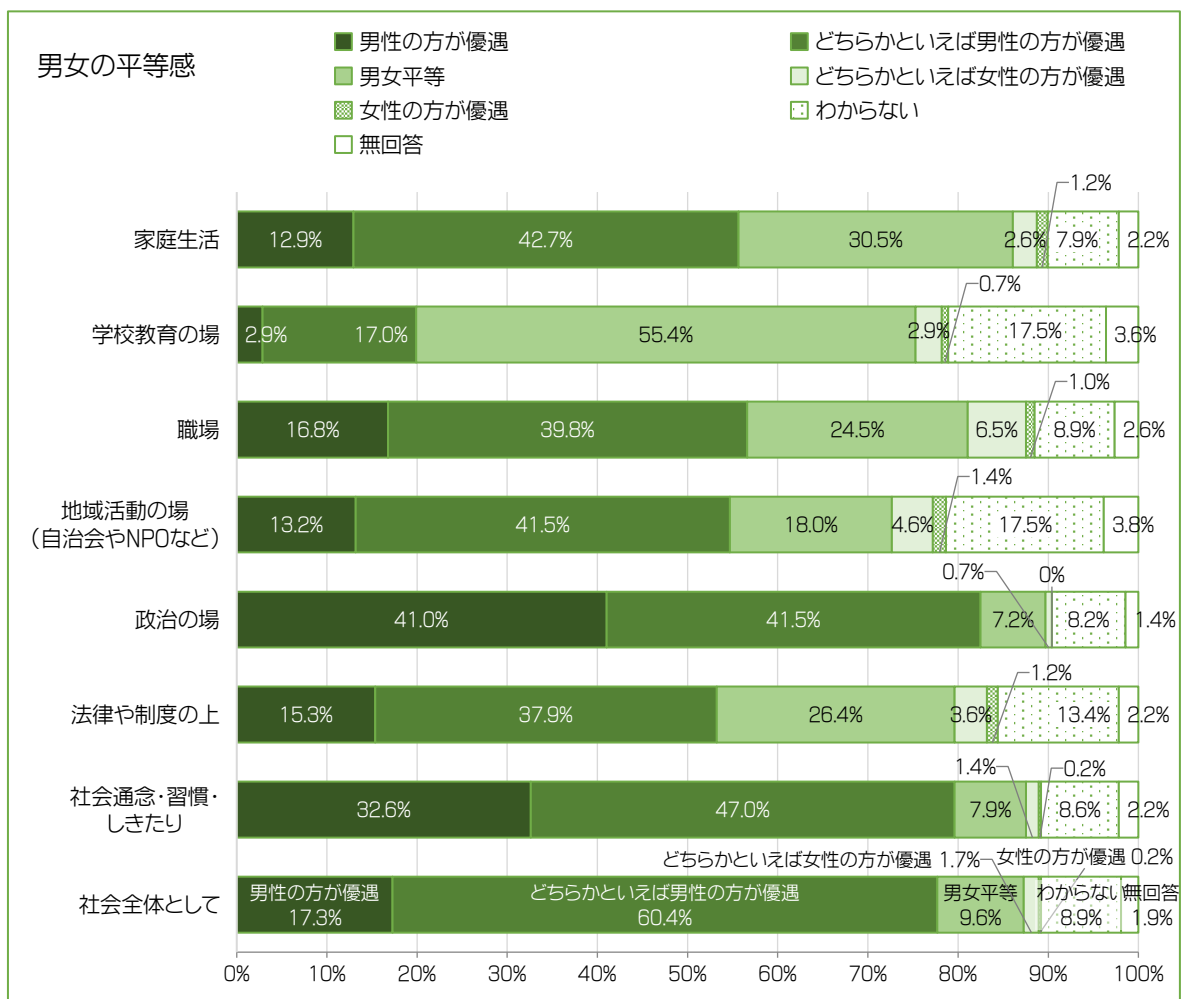
「ワークライフバランス」は言葉と内容を知っている割合は28.8%となっています。年代別では、40歳代以下の年代で「知っている」が30%以上と高く、60歳代以上の年代では「知らない」が高い傾向です。

## 男女の平等感

次にあげる各分野で男女の地位は平等になっていると思うか。

(回答数)

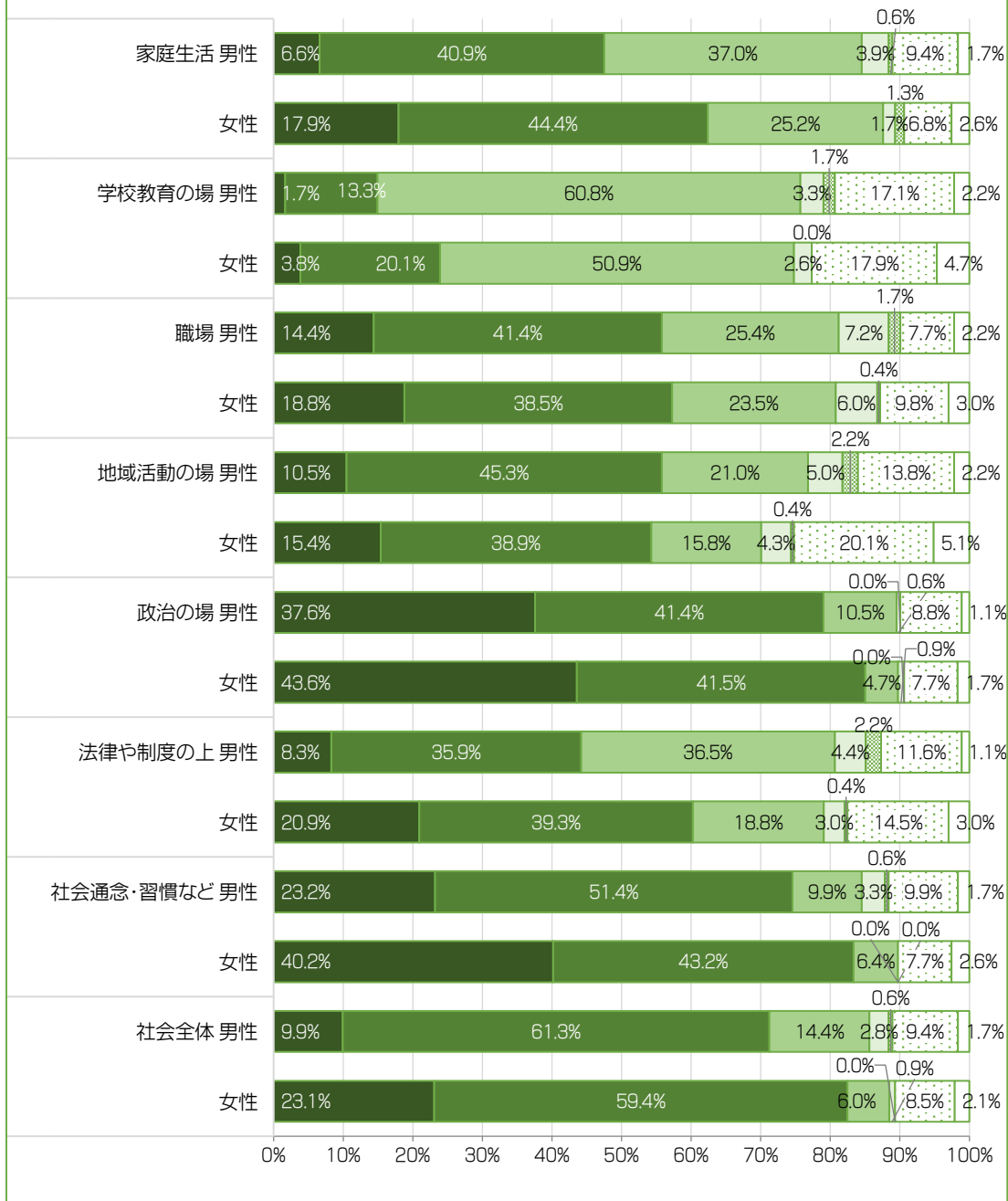
	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	男女平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない	無回答
家庭生活	54	178	127	11	5	33	9
学校教育の場	12	71	231	12	3	73	15
職場	70	166	102	27	4	37	11
地域活動の場（自治会やNPOなど）	55	173	75	19	6	73	16
政治の場	171	173	30	3	0	34	6
法律や制度の上	64	158	110	15	5	56	9
社会通念・習慣・しきたり	136	196	33	6	1	36	9
社会全体として	72	252	40	7	1	37	8



「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて（＝「男性が優遇されている」）みると、多くの項目で「男性が優遇されている」が多数を占めています。「政治の場」「社会通念・習慣・しきたりなど」「社会全体として」でとくに著しく、いずれも7割を超えています。逆に「学校教育の場では」では2割に満たず、「男女平等である」が5割を超えています。

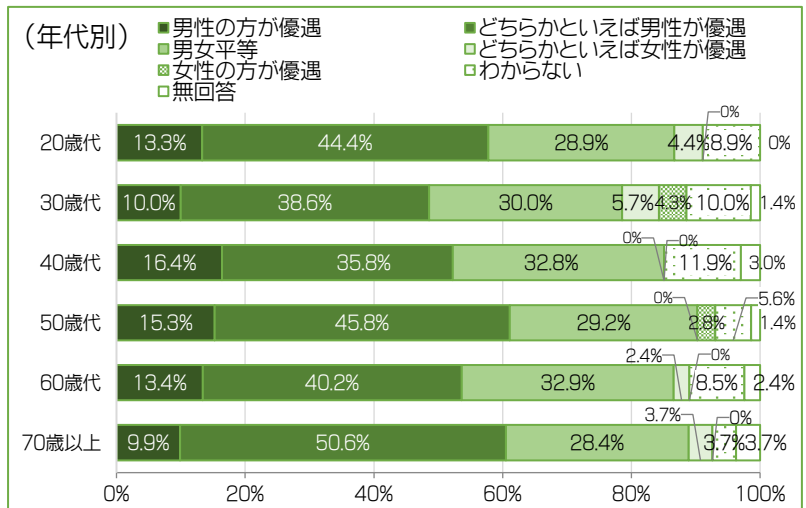
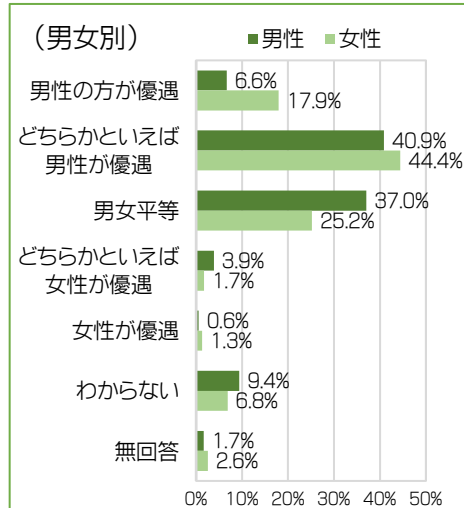
平等感(男女別)

- 男性の方が優遇
- 男性の方が優遇
- 男女平等
- どちらかといえば男性の方が優遇
- 女性の方が優遇
- どちらかといえば女性の方が優遇
- 無回答
- わからない

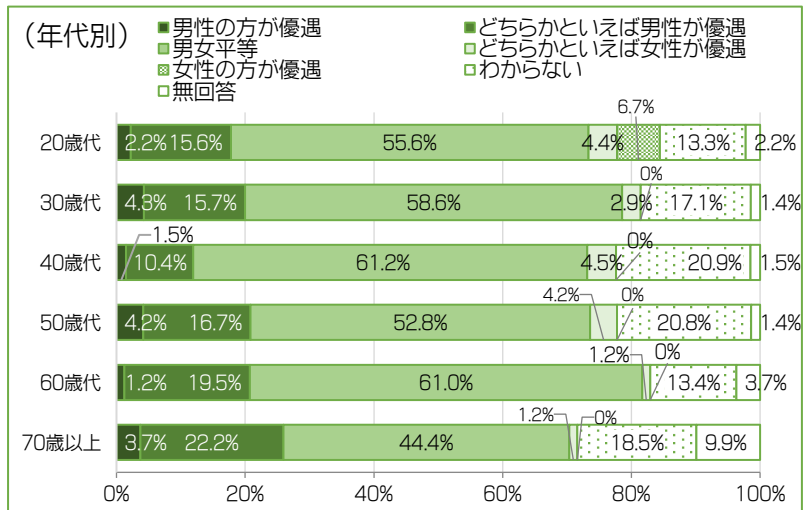
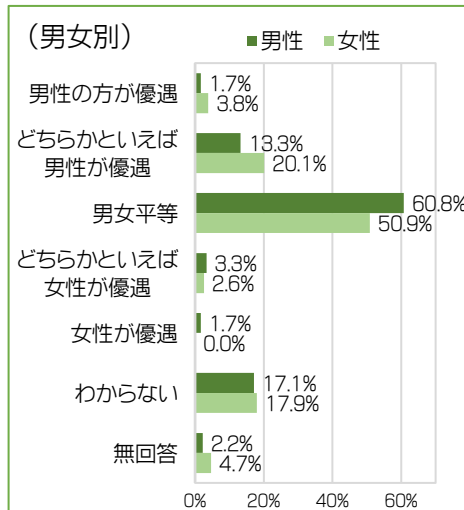




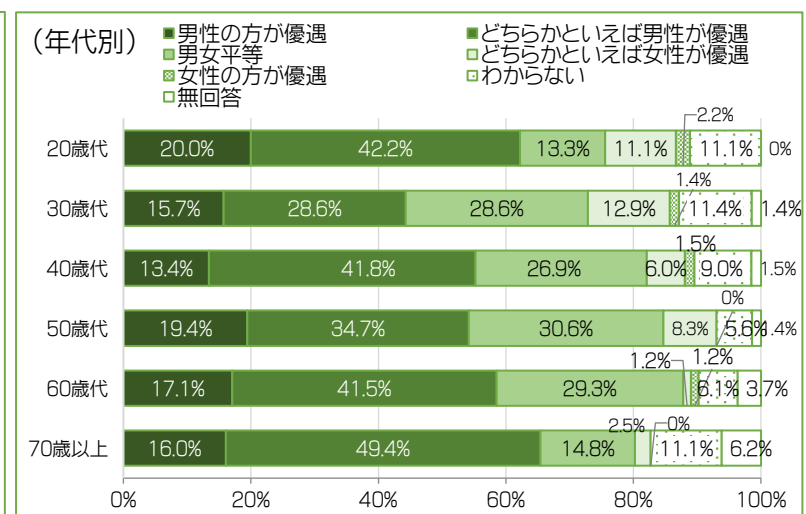
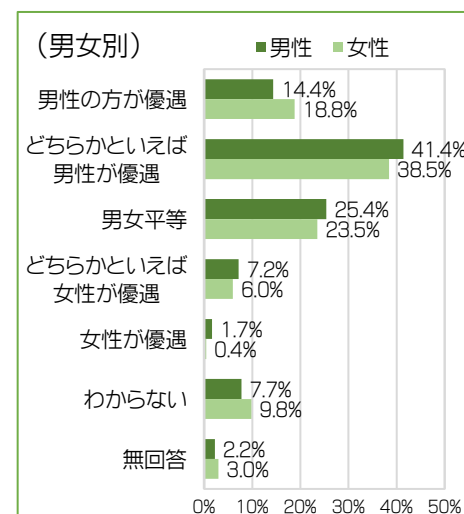
## 【家庭生活】



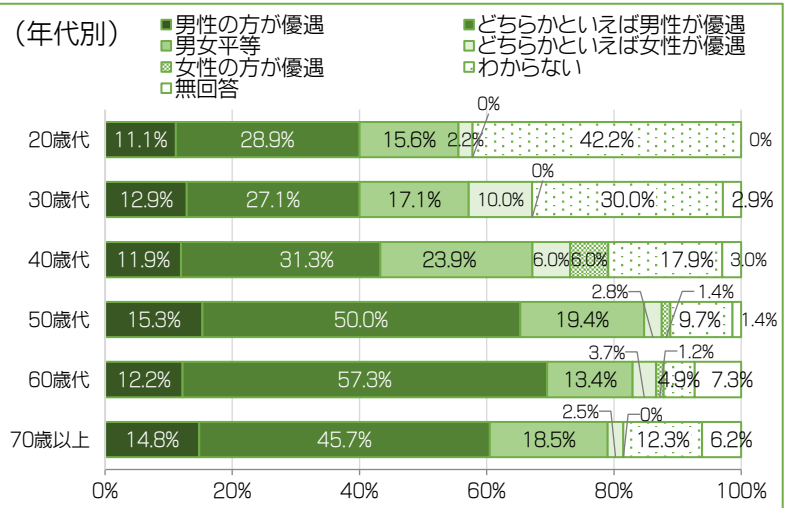
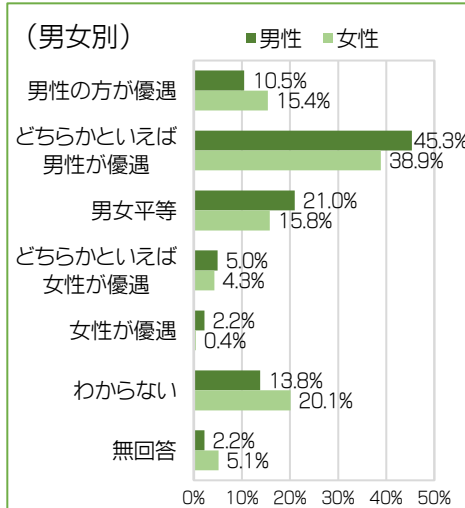
## 【学校教育の場】



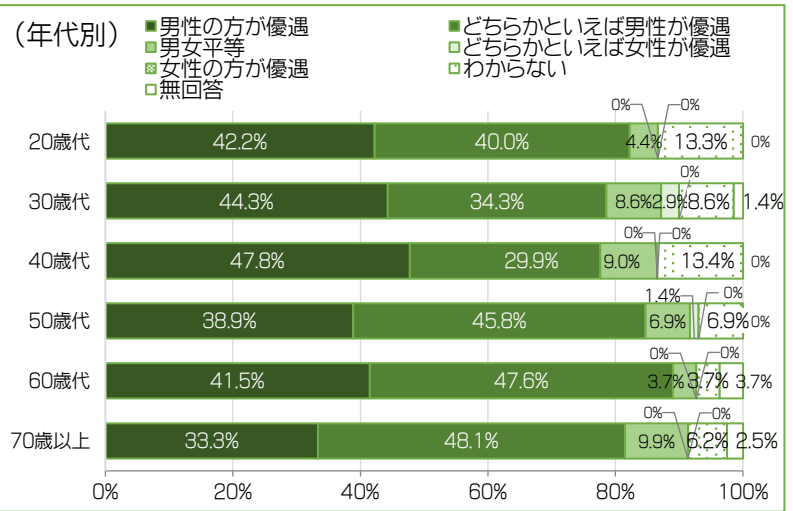
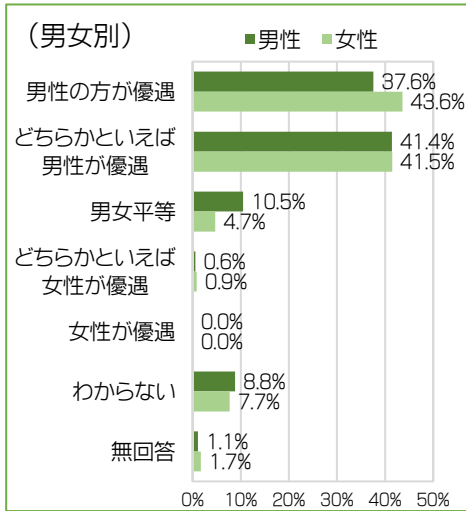
## 【職場】



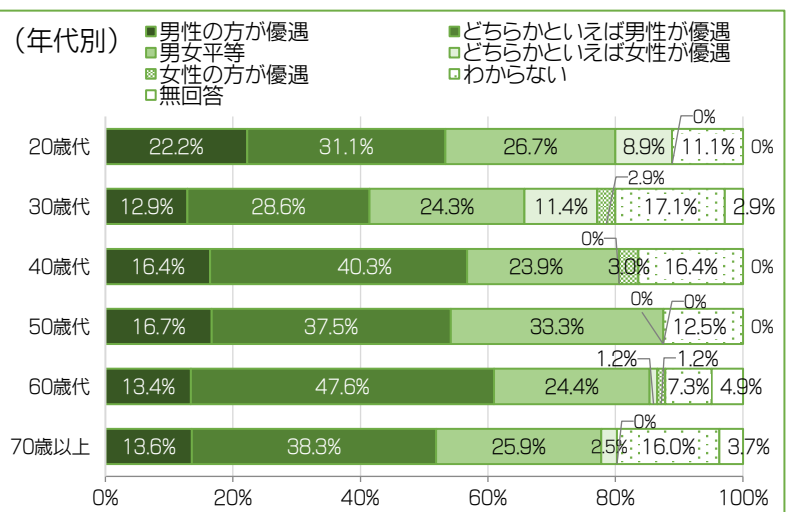
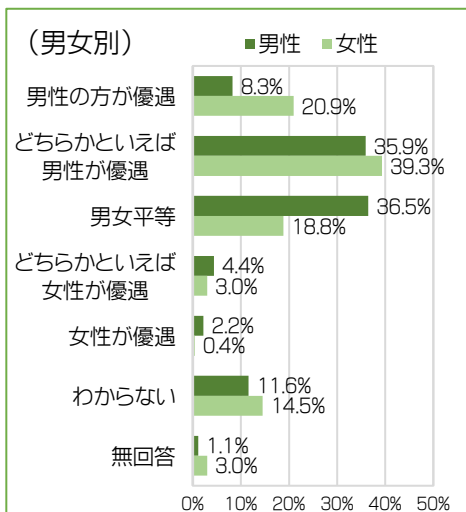
【地域活動の場（自治会やNPOなど）】



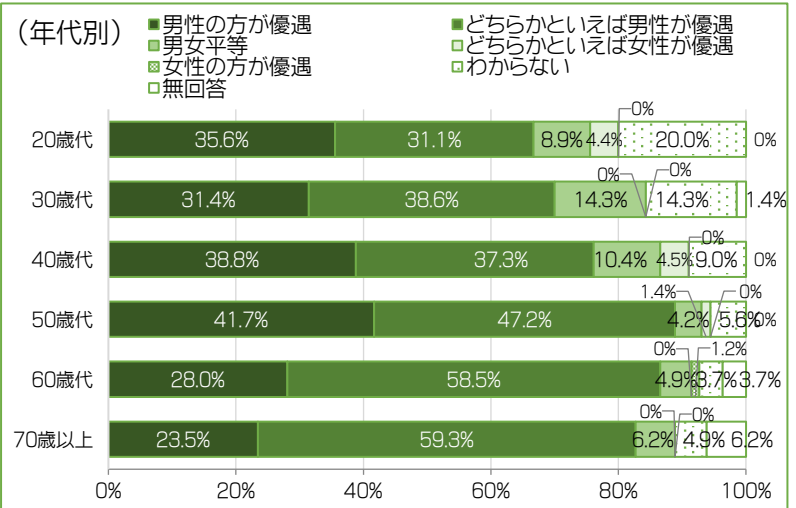
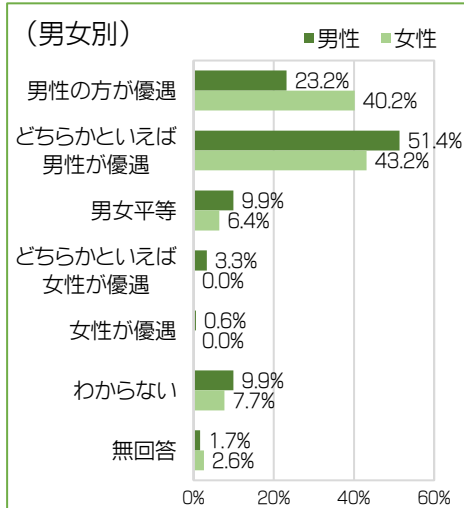
【政治の場】



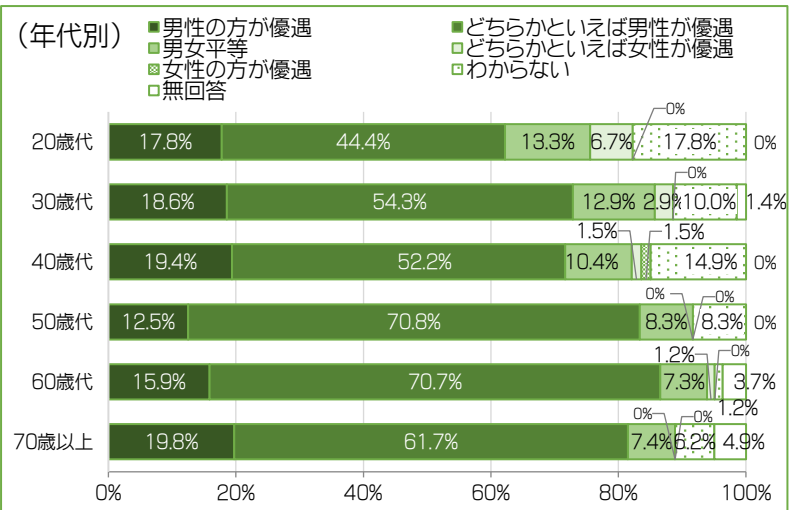
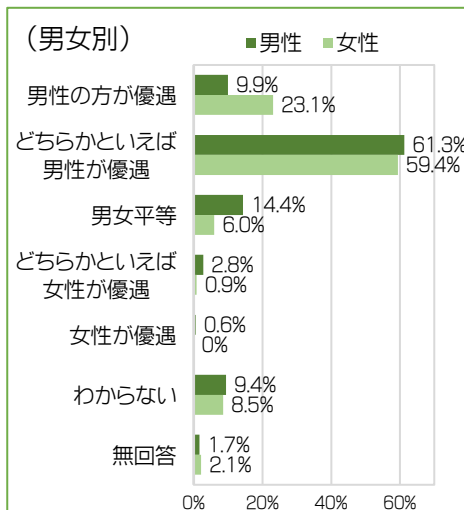
【法律や制度の上】



【社会通念・習慣・しきたり】



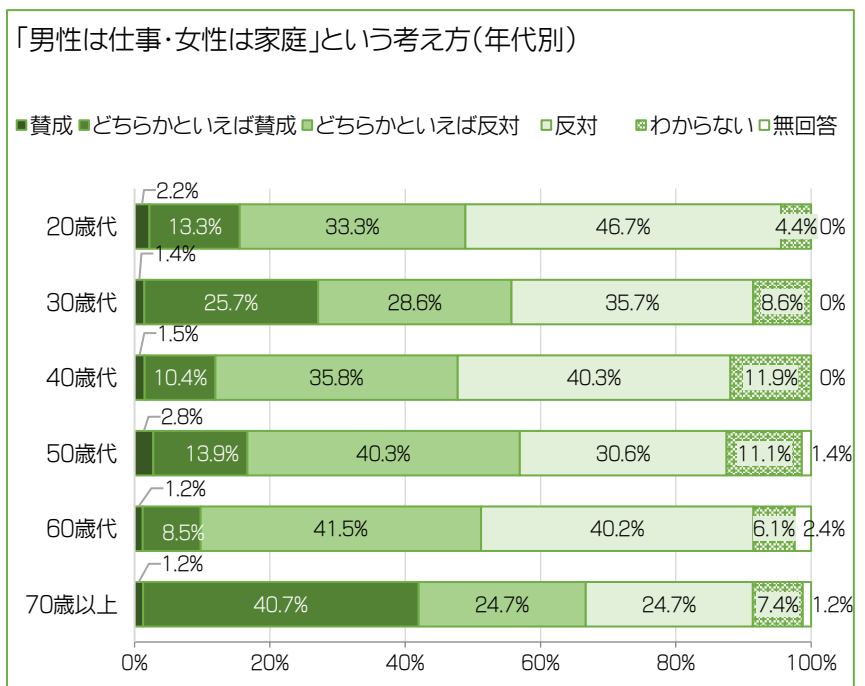
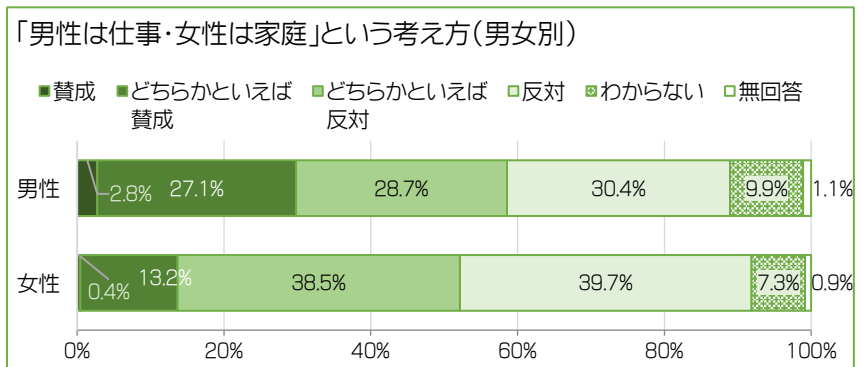
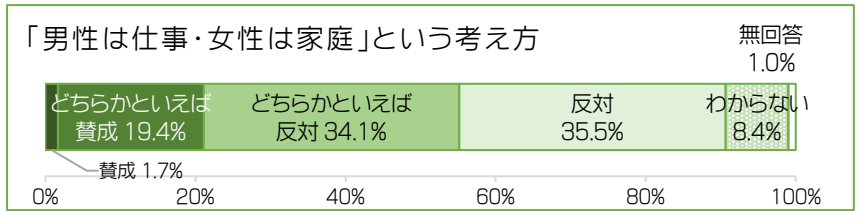
【社会全体として】



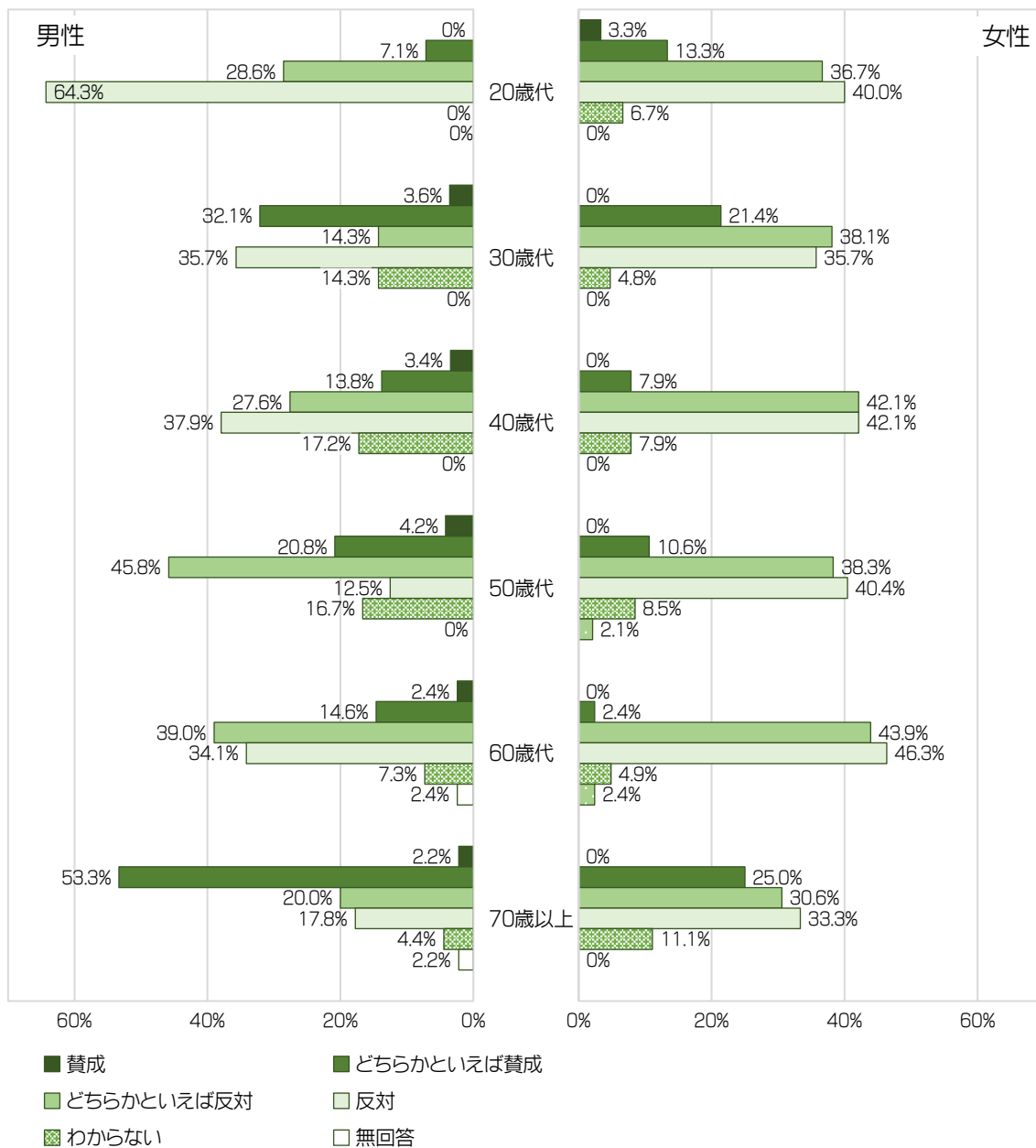
# 家庭における男女の役割分担意識について

「男性は仕事・女性は家庭」という考え方についてどう思うか。

	回答数
賛成	7
どちらかといえば賛成	81
どちらかといえば反対	142
反対	148
わからない	35
無回答	4



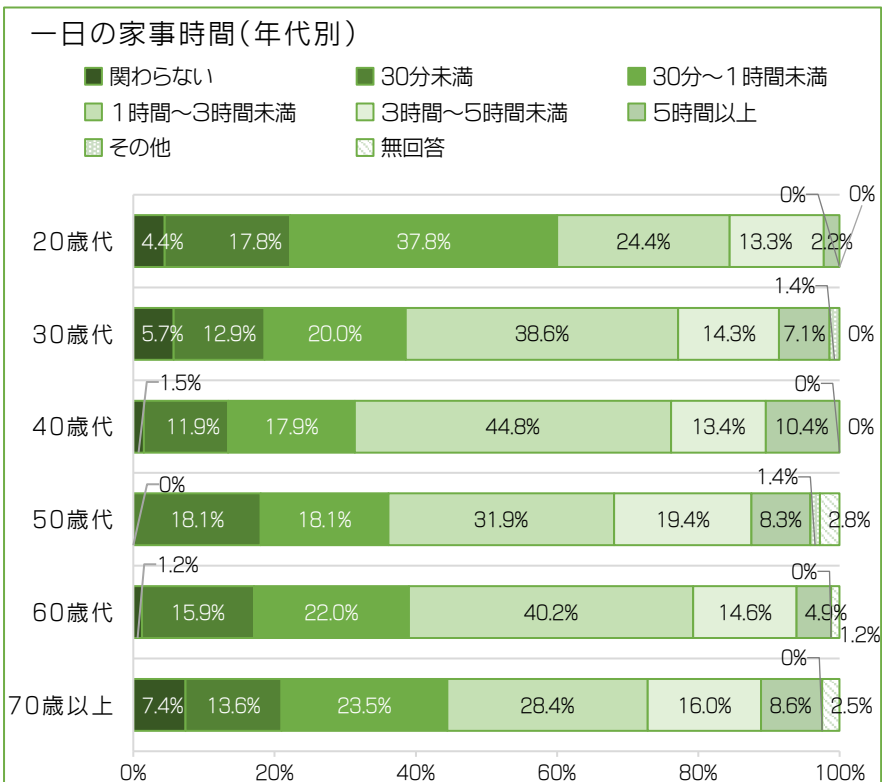
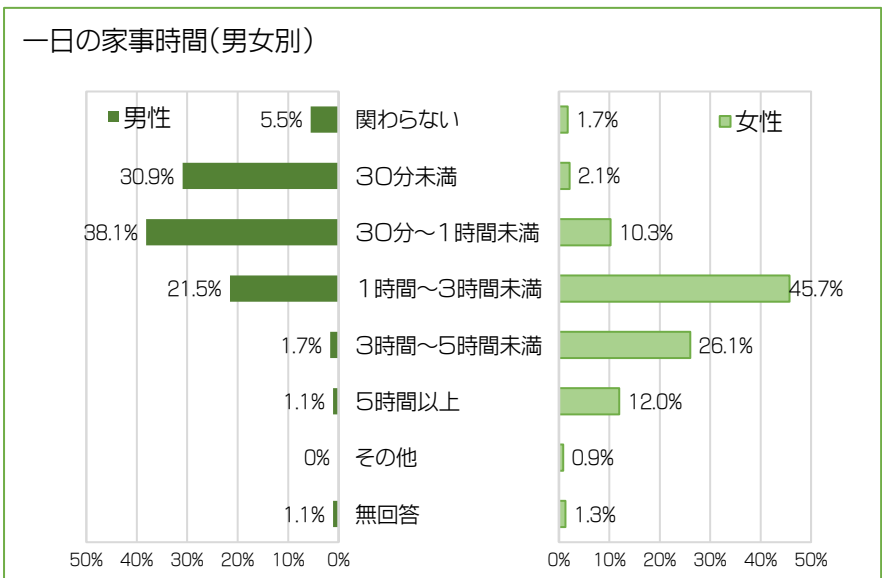
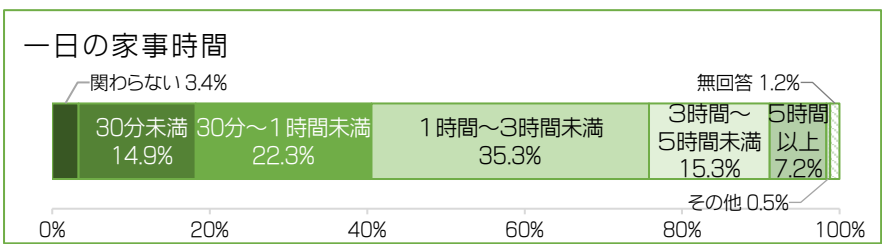
参考 「男性は仕事・女性は家庭」という考え方(男女・年代別)



男女で大きな差がみられます。「どちらかといえば反対」「反対」を合わせると、男性が59.1%、女性が78.2%で、女性が男性を19ポイント上回っています。年代別では、「どちらかといえば反対」「反対」を合わせると、60代が81.7%で最も多く、最も少ない70代以上の49.4%と32.3ポイント差があります。

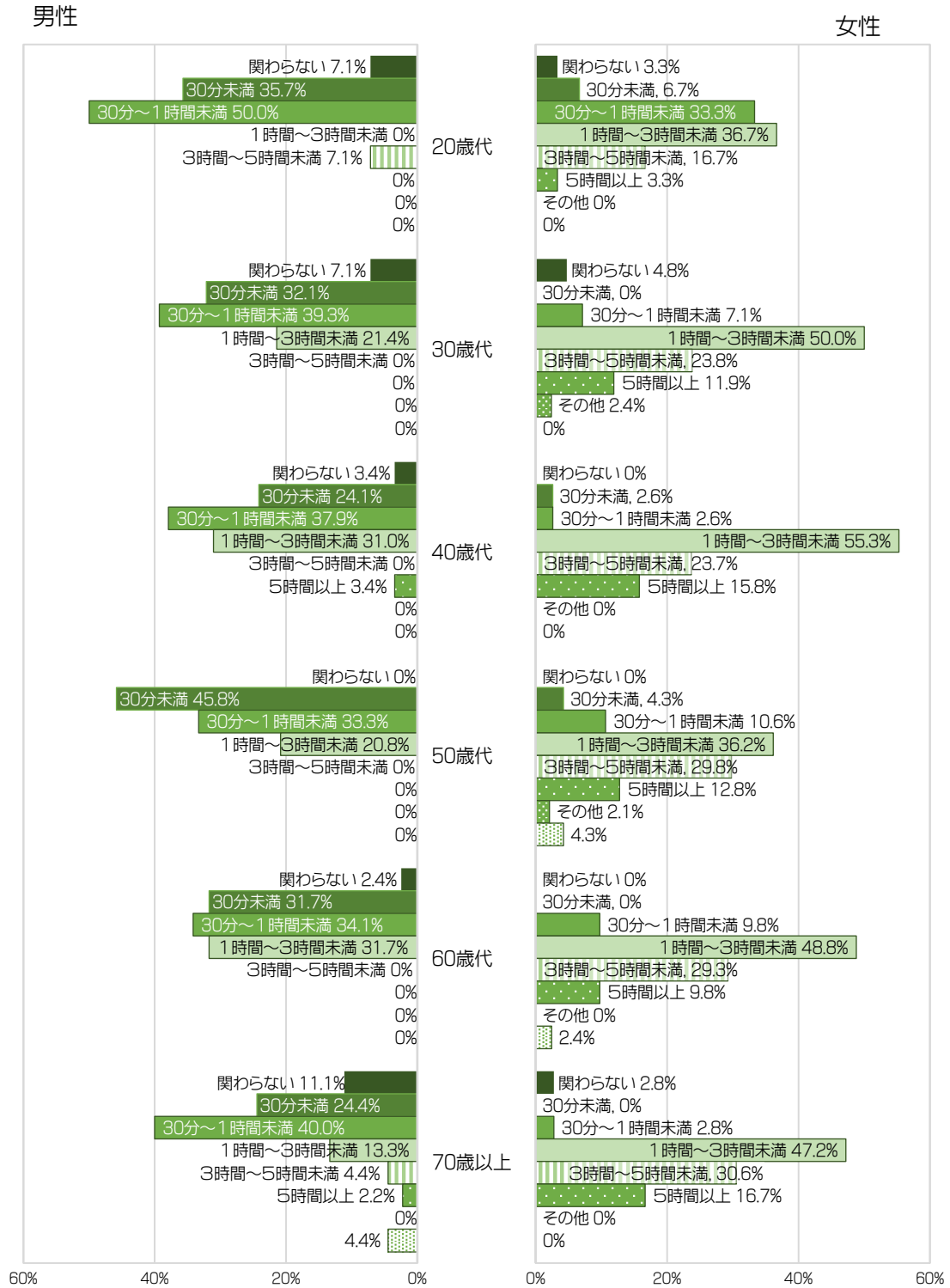
1日に家事に費やす時間はどのくらいあるか。

	回答数
関わらない	14
30分未満	62
30分～1時間未満	93
1時間～3時間未満	147
3時間～5時間未満	64
5時間以上	30
その他	2
無回答	5



男女で大きな差がみられます。男性では1時間以上関わる割合が24.3%であるのに対し、女性は1時間以上が84.7%と約3.5倍です。  
年代においては、20代が関わる時間が短い傾向あります。

参考 1日に家事に費やす時間(男女・年代別)

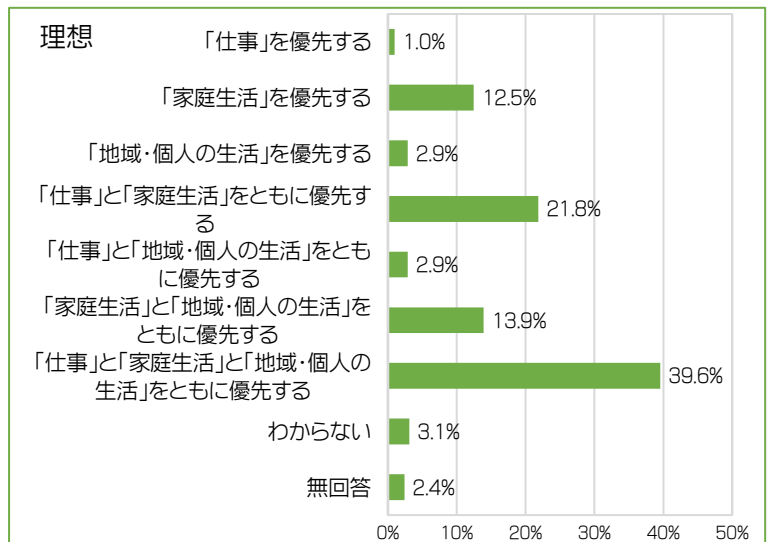


## 仕事と生活のバランスについて

生活の中での、「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」（地域活動・学習・趣味・付き合いなど）の優先度について、あなたの理想と現実に最も近いものはどれか。

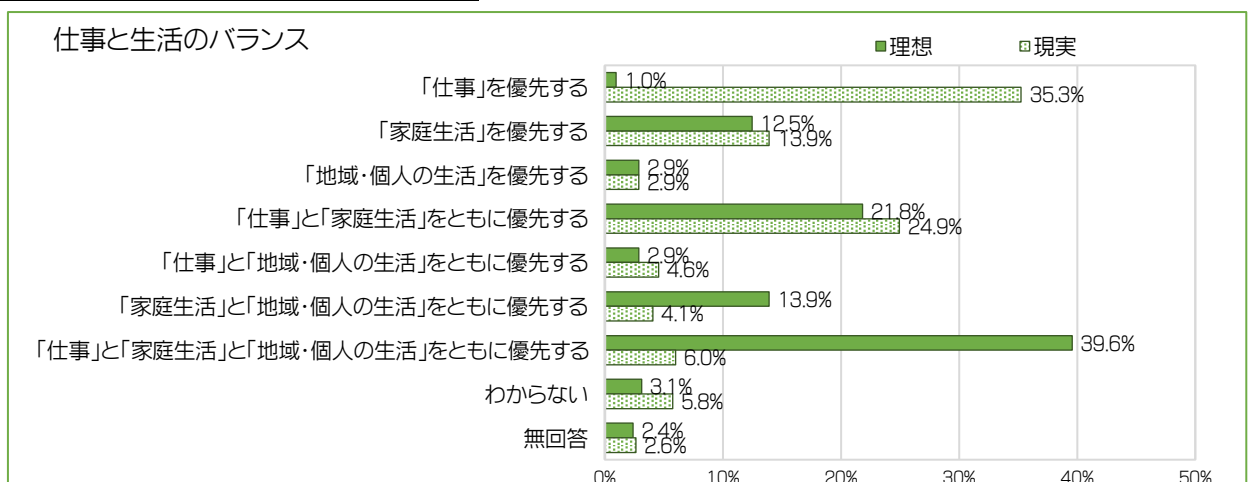
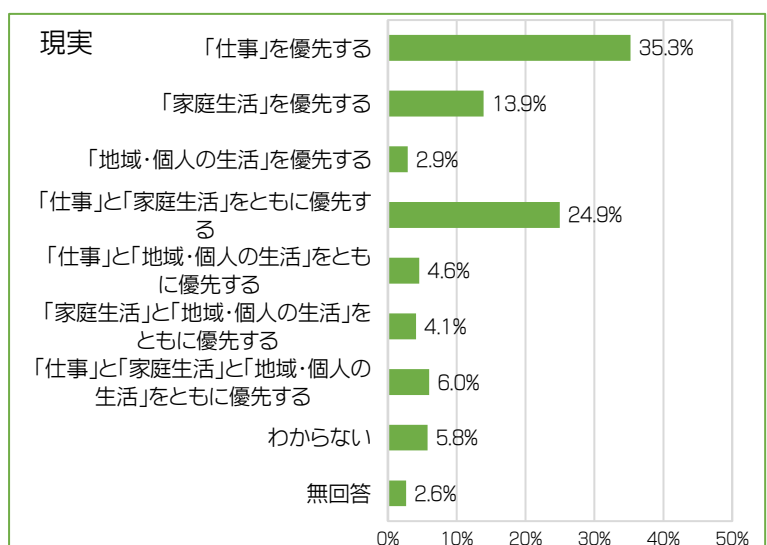
### 優先度【理想】

	回答数
「仕事」優先	4
「家庭生活」優先	52
「地域・個人の生活」優先	12
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	91
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	12
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	58
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	165
わからない	13
無回答	10

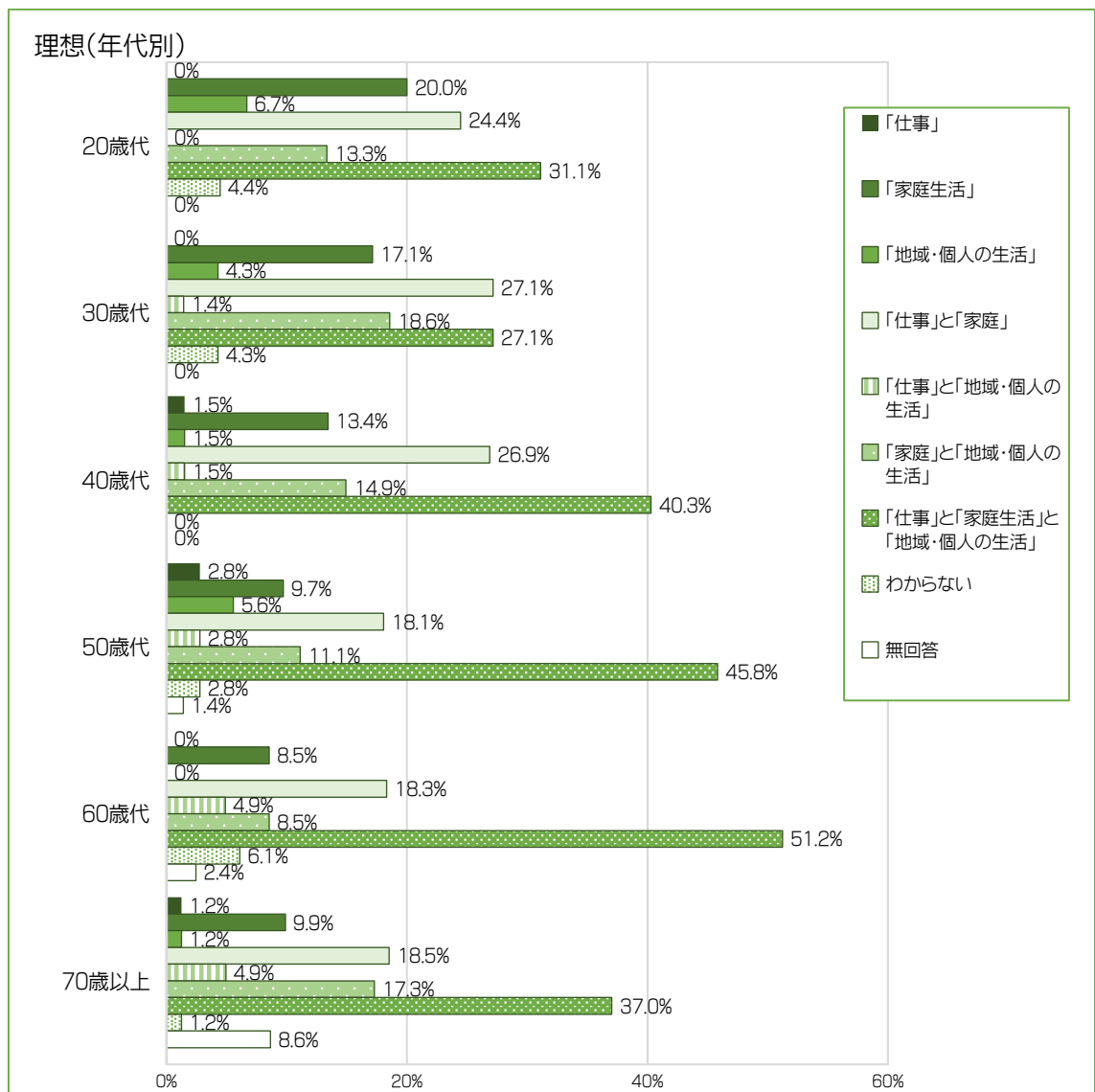
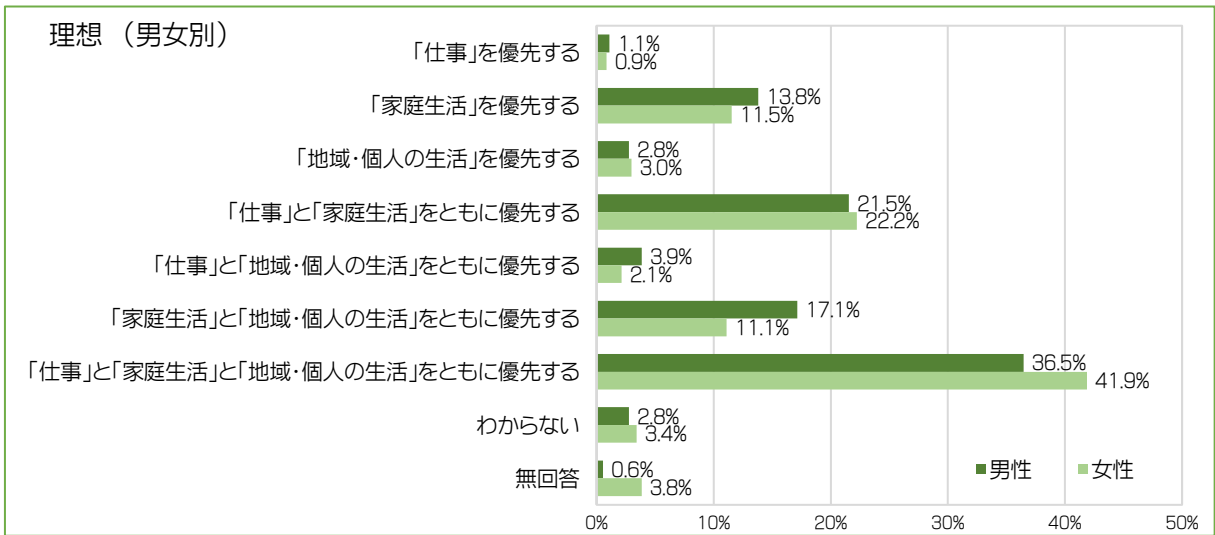


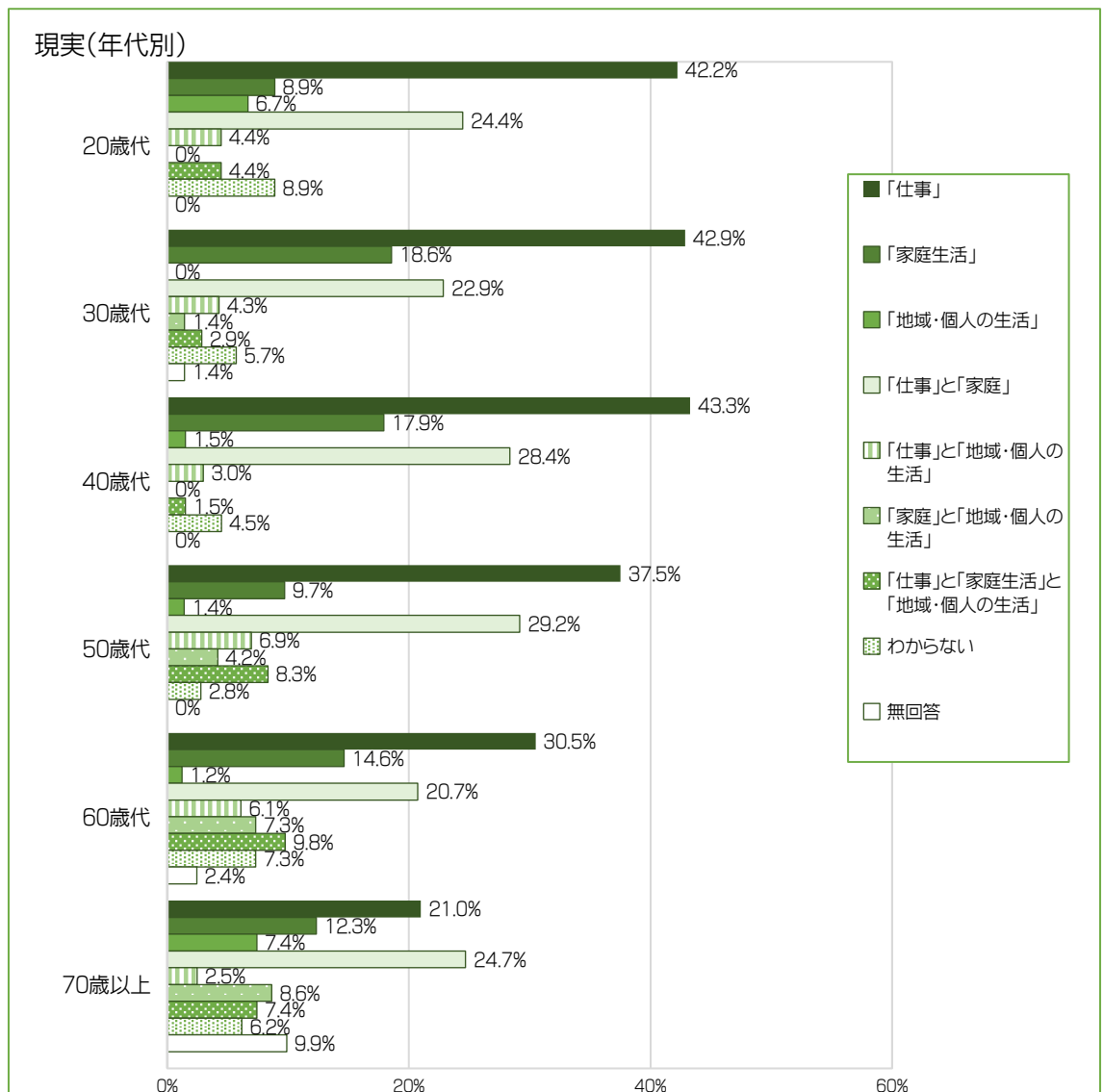
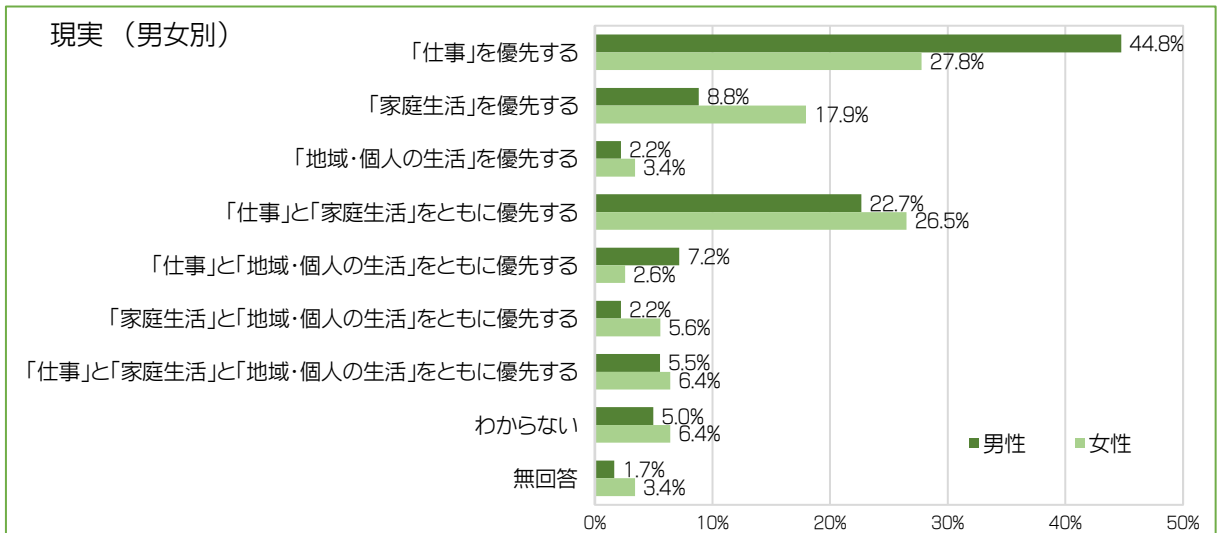
### 優先度【現実】

	回答数
「仕事」優先	147
「家庭生活」優先	58
「地域・個人の生活」優先	12
「仕事」と「家庭生活」をともに優先	104
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先	19
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	17
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先	25
わからない	24
無回答	11









男女年代別問わず、理想は「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先するがもっと多くなっています。

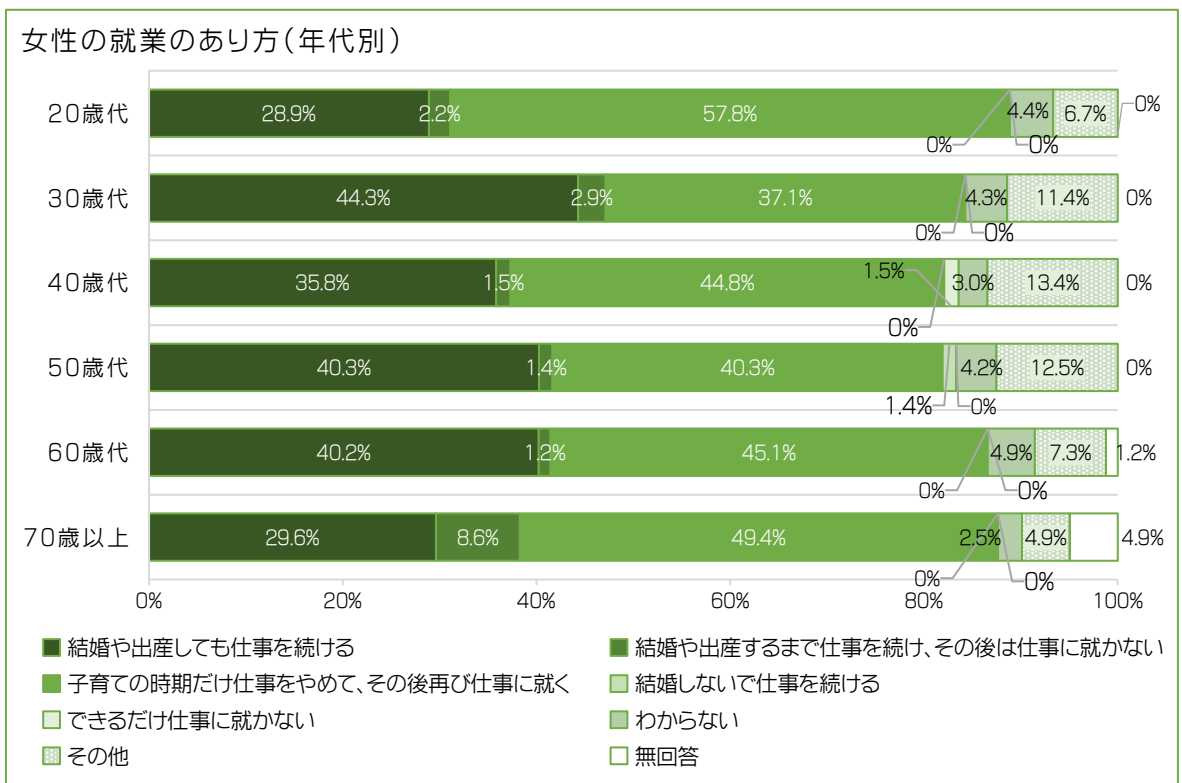
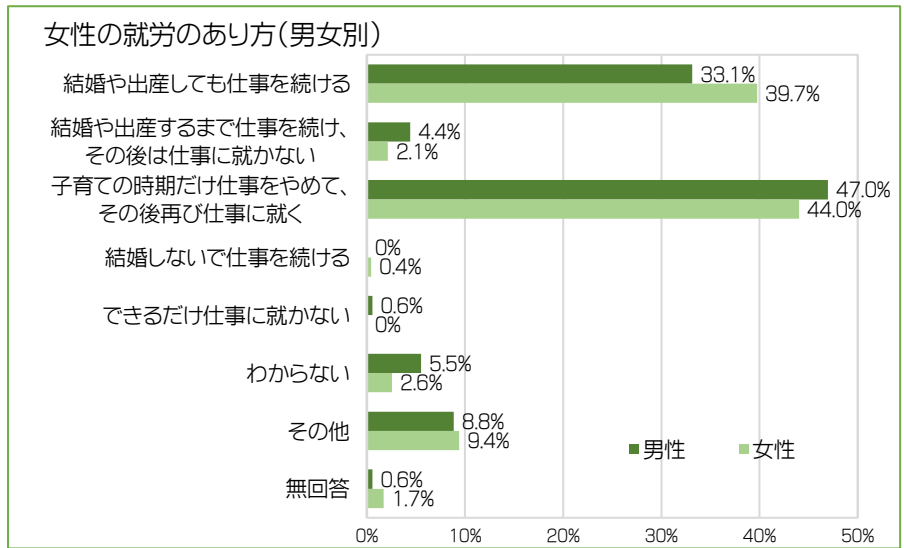
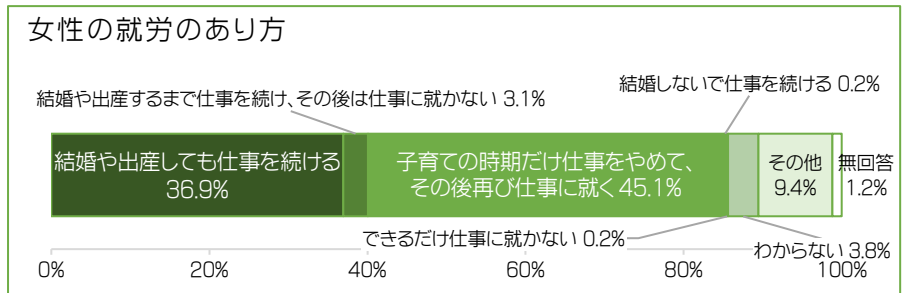
現実では、「「仕事」を優先している」と「「家庭生活」を優先している」で男女で大きな差がみられます。「「仕事」を優先している」では男性が女性を17ポイント、「「家庭生活」を優先している」では女性が男性を9.1ポイントそれぞれ上回っています。

現実の年代別では、70歳以上が「「仕事」と「家庭」を優先している」が最も多く、ほかの年代では「「仕事」を優先している」の割合が最も多くなっています。

## 女性の就労のあり方

女性の就労のあり方について、考えに最も近いものはどれか。

	回答数
結婚や出産しても仕事を続ける方がよい	154
結婚や出産するまでは仕事を続け、その後は仕事に就かない方がよい	13
子育ての時期だけ仕事をやめて、その後再び仕事に就いた方がよい	188
結婚しないで仕事を続ける方がよい	1
女性はできるだけ仕事に就かない方がよい	1
わからない	16
その他	39
無回答	5



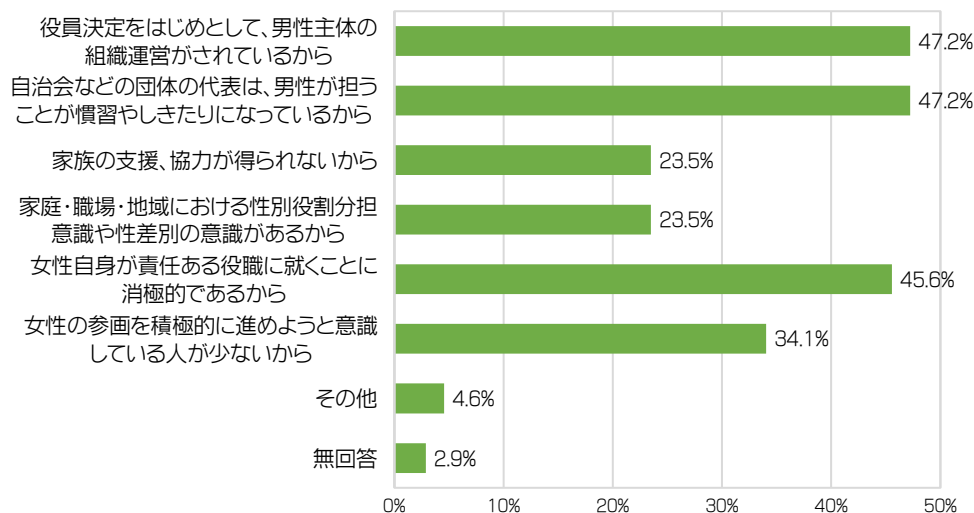
「子育ての時期だけ仕事をやめて、その後再び仕事に就いた方がよい」が20代では57.8%で最も多くなっています。「結婚や出産しても仕事を続ける方がよい」は30歳代で最も多くなっています。「女性の就労のあり方」についてはその他の意見が多く寄せられています。

## 女性の参画について

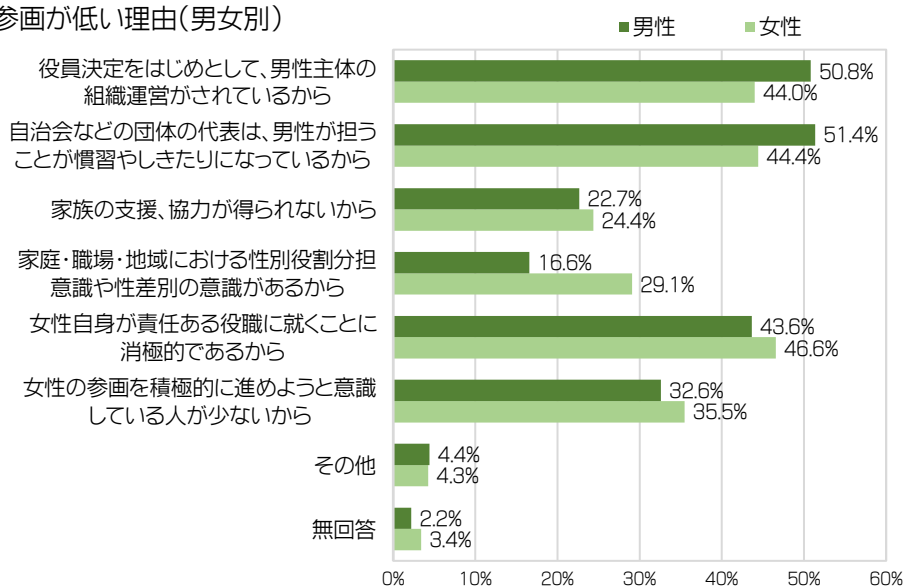
自治会や町内会、PTAなどの役員、議員や行政委員における女性の参画が低い傾向にある理由は何だと思うか。(3つまで)

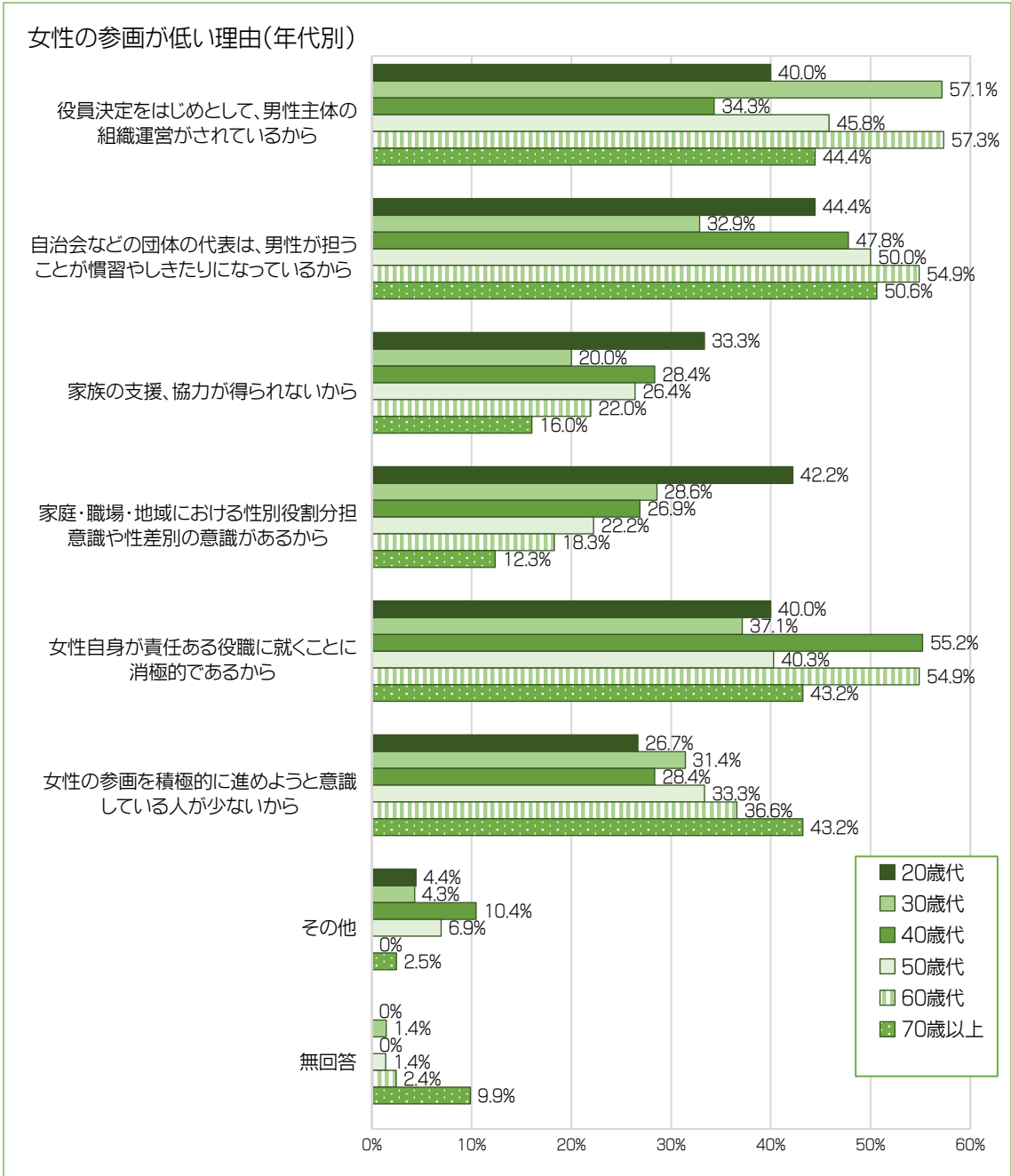
	回答数
役員決定をはじめとして、男性主体の組織運営がされているから	197
自治会などの団体の代表は、男性が担うことが慣習やしきたりになっているから	197
家族の支援、協力が得られないから	98
家庭・職場・地域における性別役割分担意識や性差別の意識があるから	98
女性自身が責任ある役職に就くことに消極的であるから	190
女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから	142
その他	19
無回答	12

### 女性の参画が低い理由



### 女性の参画が低い理由(男女別)





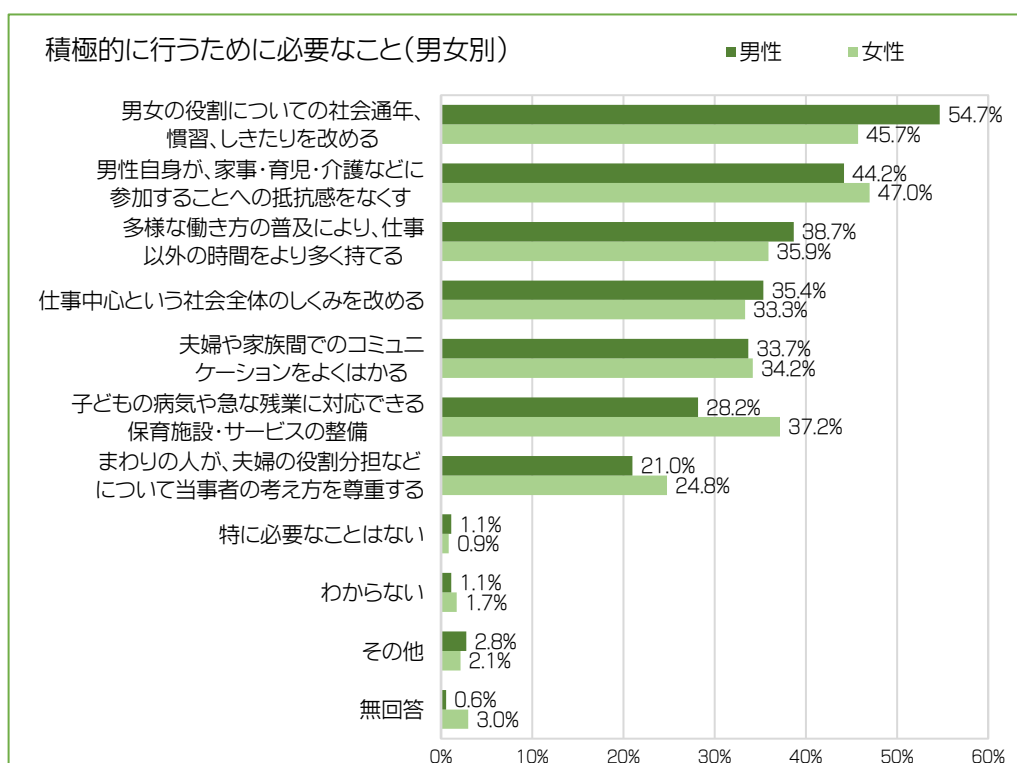
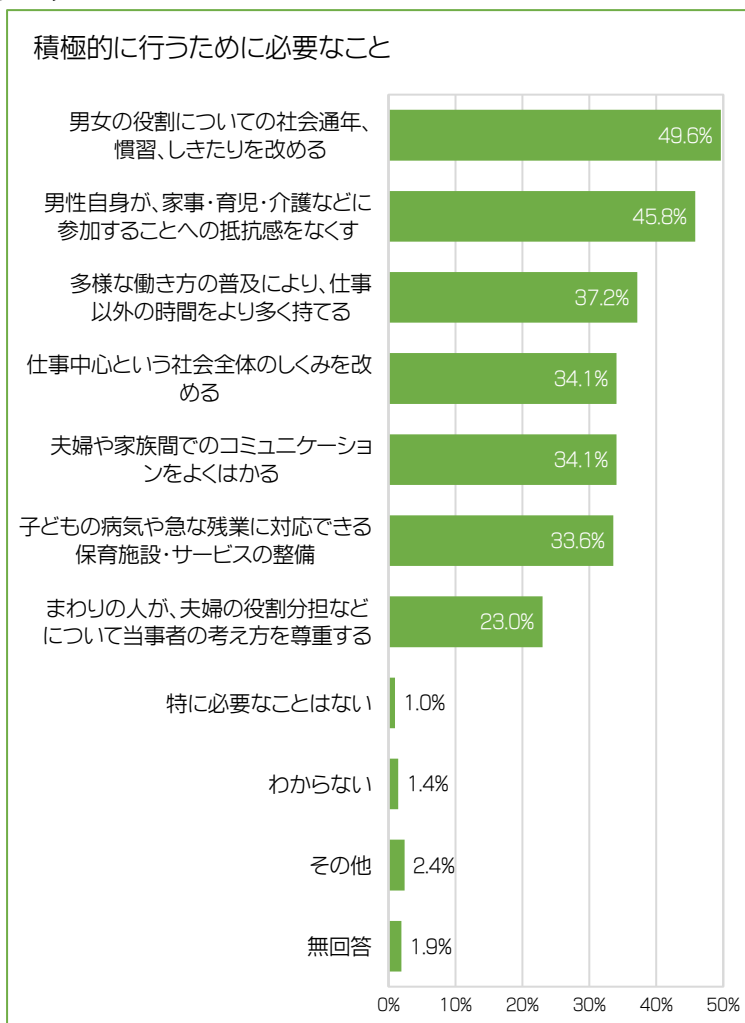
男女年代別を問わず、「役員決定をはじめとして、男性主体の組織運営がされているから」「自治会などの団体の代表は、男性が担うことが慣習やしきたりになっているから」「女性自身が責任ある役職に就くことに消極的であるから」とする回答が、多くを占めています。

「家庭・職場・地域における性別役割分担意識や性差別の意識があるから」は20歳代が特に多く、年代が上がるにつれ減少しています。対して「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ないから」は年代が上がるにつれ上昇しています。

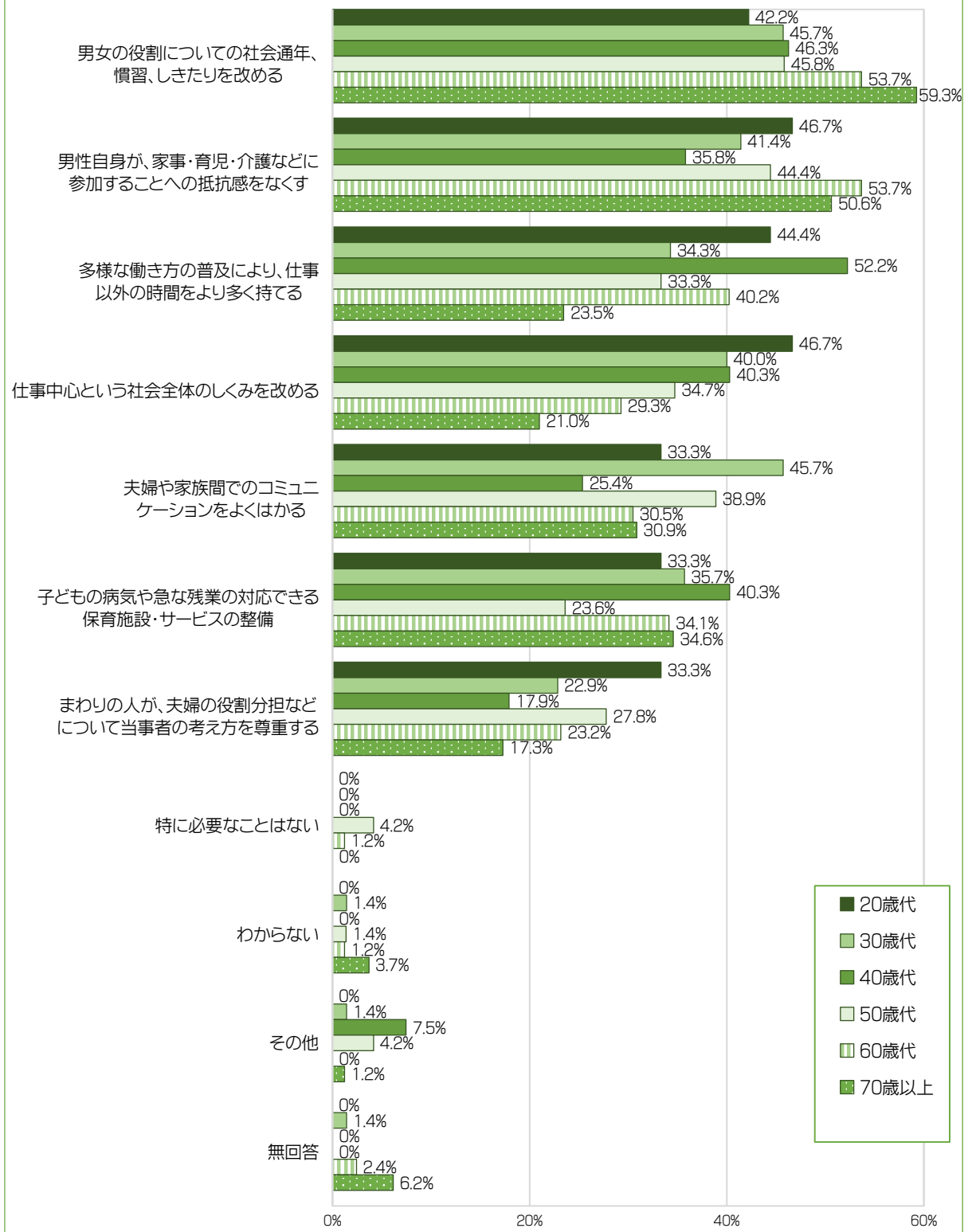
## 仕事、家事、子育て、介護、地域活動への参画について

男性と女性がともに仕事、家事、子育て、介護、地域活動を積極的に行っていくためには、どのようなことが必要か。(3つまで)

	回答数
男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	207
男性自身が、家事・育児・介護などに参加することへの抵抗感をなくすこと	191
労働時間短縮や休暇制度、テレワークなどの在宅勤務等を利用した多様な働き方の普及により、仕事以外の時間をより多く持てるようになること	155
仕事中心という社会全体のしきみを改めること	142
夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	142
子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること	140
まわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること	96
特に必要なことはない	4
わからない	6
その他	10
無回答	8



### 積極的に行うために必要なこと(年代別)



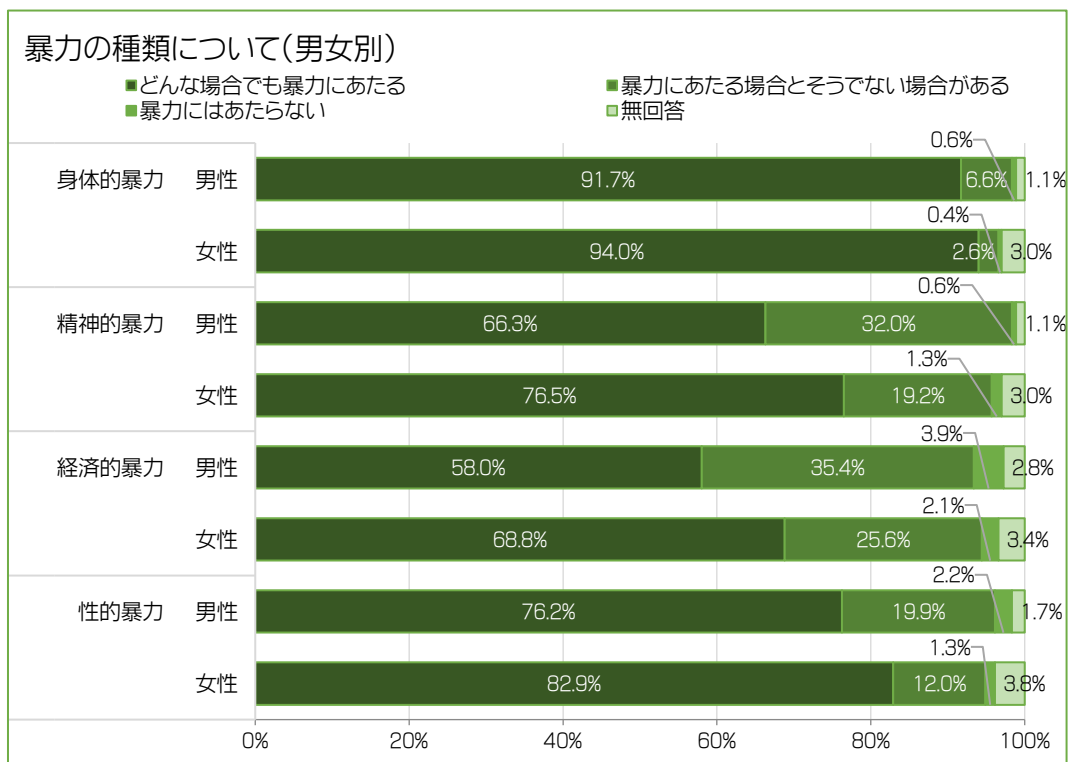
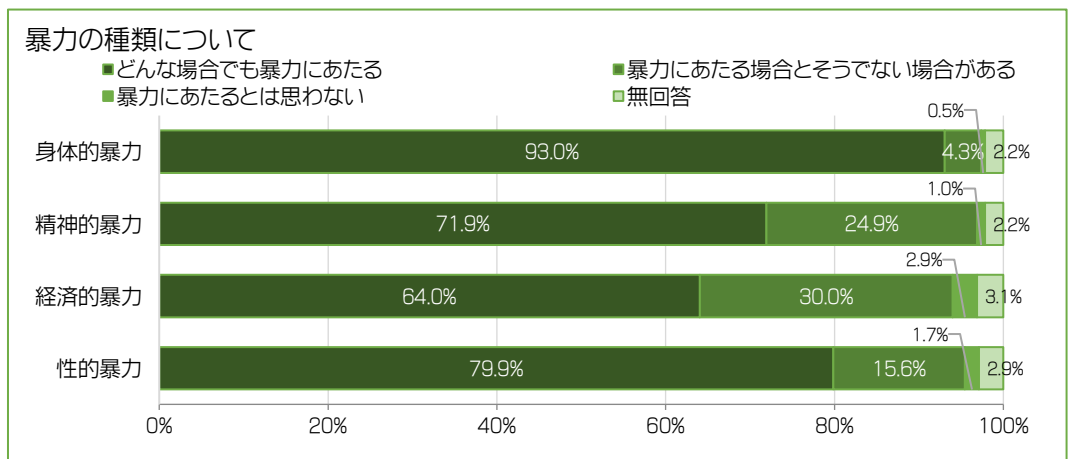
「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が最も多く、次いで「男性自身が、家事・育児・介護などに参加することへの抵抗感をなくすこと」などとなっています。「子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること」は女性が男性9ポイント上回っています。「仕事中心という社会全体のしくみを改めること」は20歳代が特に多く、年代が上がるにつれ減少しています。対して「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」は年代が上がるにつれ上昇しています。

## あらゆる暴力の根絶について

次のようなことが配偶者や恋人との間で行われた場合、それが暴力にあたると思うか。

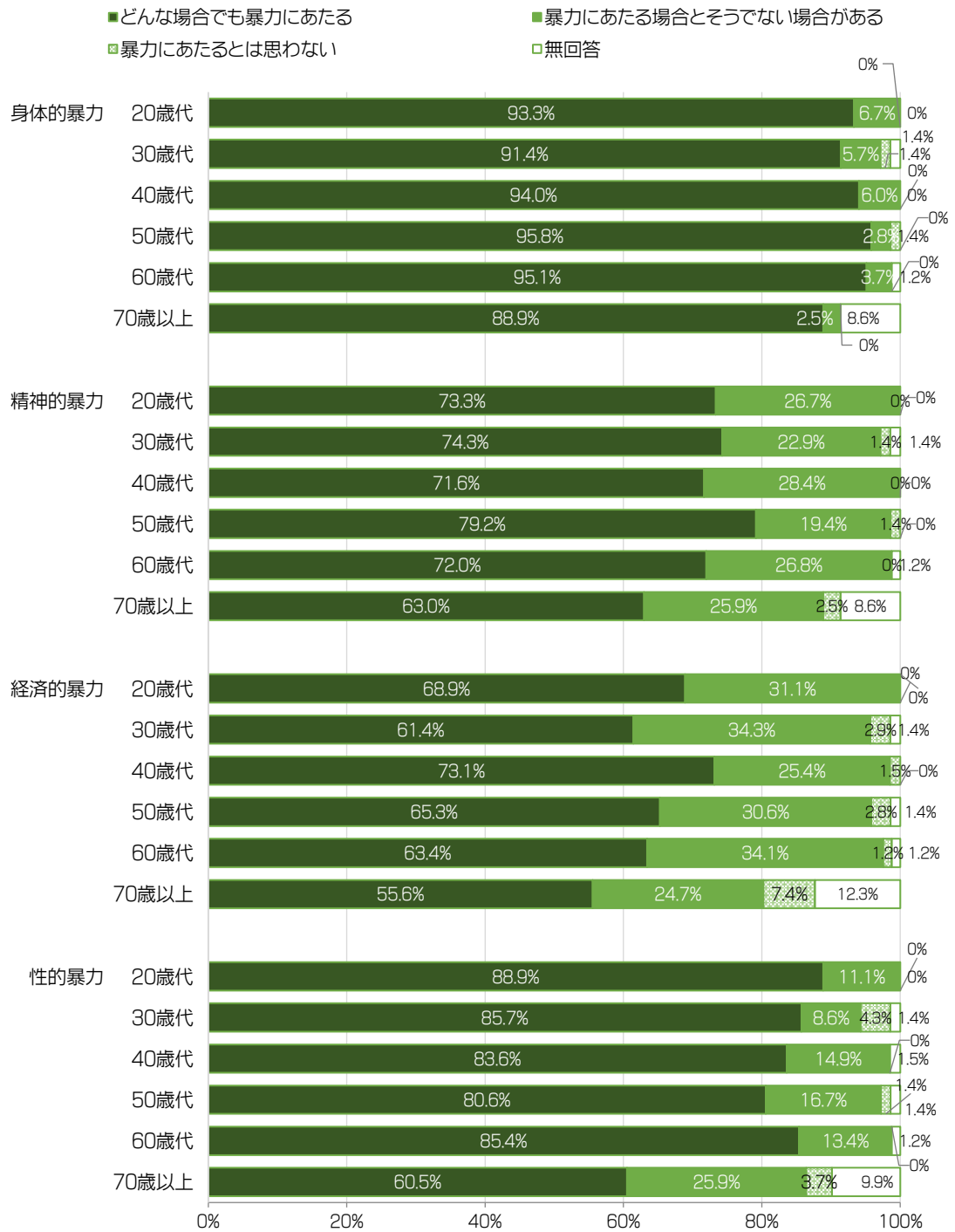
(回答数)

	かどに あな あたる 場合 でも 暴 力 に あ た る と 思 う	が と 暴 力 に あ た る 場 合 に あ ら な い と 思 う	思 わ な い と 思 う 場 合 に あ た る と は な い	無 回 答
殴ったり、蹴ったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど、身体に対して暴行を加える（身体的暴力）	388	18	2	9
おどしたり、怒鳴ったり、非難したり、無視をしたり、行動や服装を制限するなど、言葉や態度での攻撃をする（精神的暴力）	300	104	4	9
生活費を渡さない、いつもデート代をおごらせるなど、経済的に押さえつける（経済的暴力）	267	125	12	13
性的な行為を強要する（性的暴力）	333	65	7	12





### 暴力の種類について(年代別)

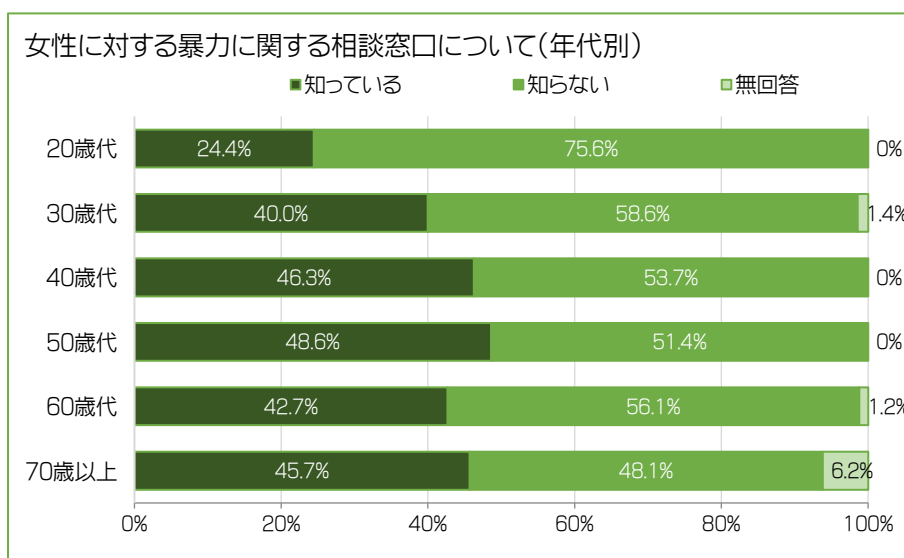
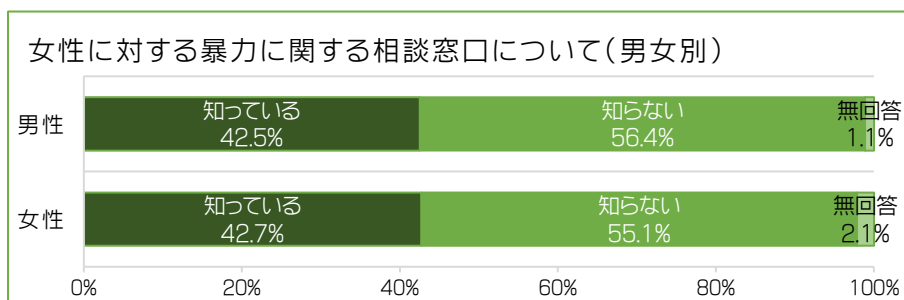
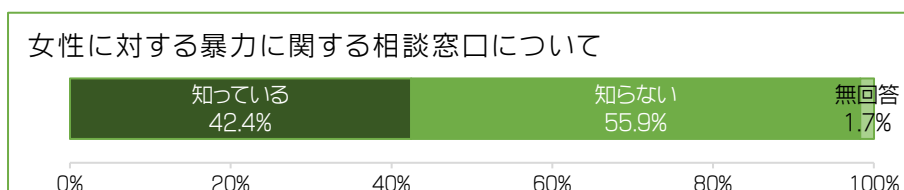


「身体的暴力」については男女年代別を問わず、「どんな場合でも暴力にあたると思う」人の割合が9割前後を示しています。「精神的暴力」については「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は男女差が12.8ポイントと大きな差がみられます。

## 女性相談窓口について

性犯罪・性暴力、セクシュアル・ハラスメント、夫・パートナーからの暴力など、女性に対する暴力に関する相談窓口が、市役所にあることを知っているか。

	回答数
知っている	177
知らない	233
無回答	7



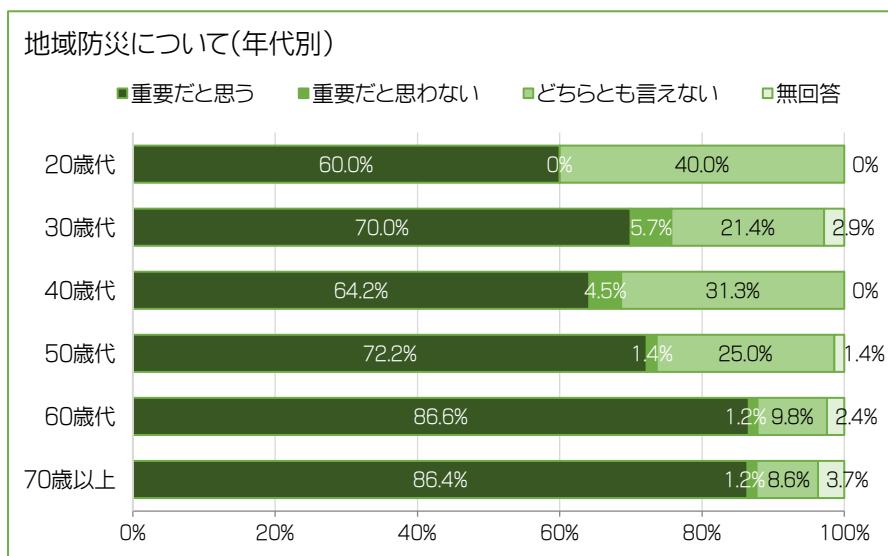
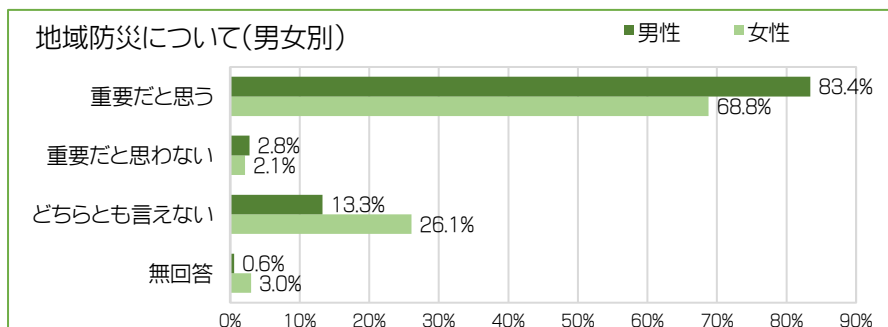
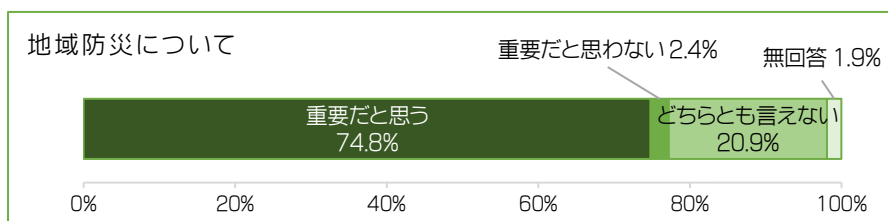
相談窓口について知っている人は、男女差はほとんど見られません。20歳代は「知っている」の割合が24.4%と他世代より著しく低くなっています。

## 防災における女性の関わりについて

地域防災（自主防災組織など）について、女性の関わりが重要だと思うか。

【第4次男女共同参画計画 効果指標】

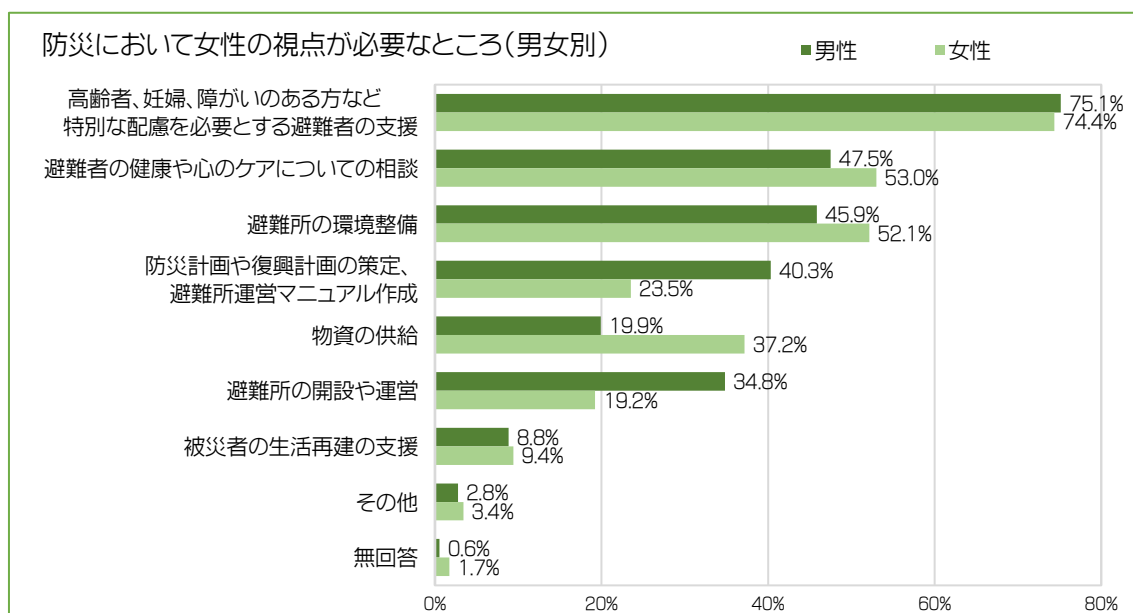
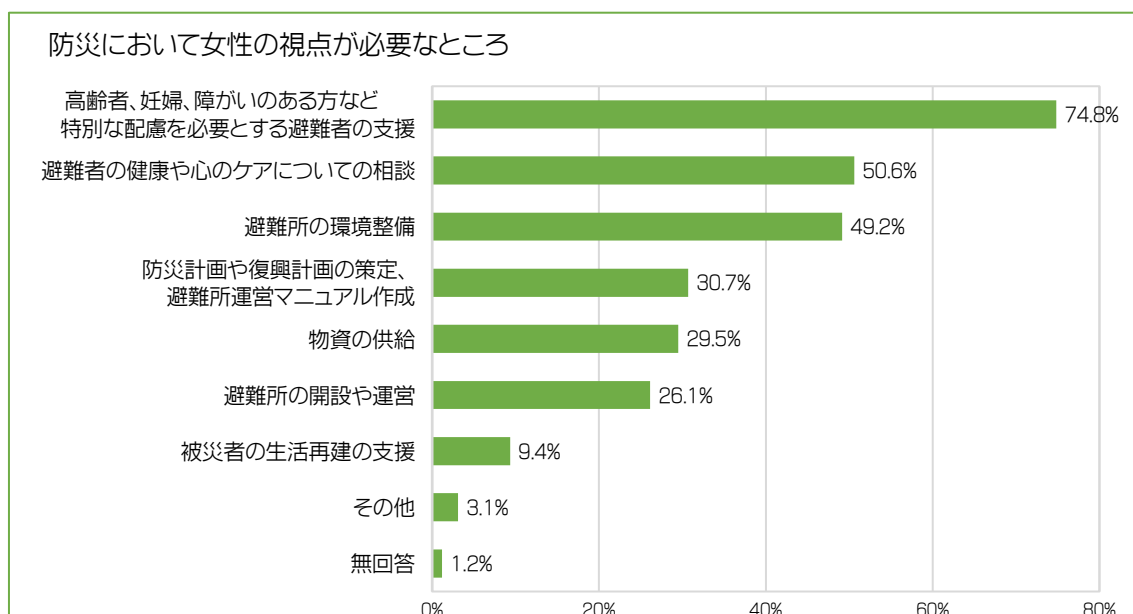
	回答数
重要だと思う	312
重要だと思わない	10
どちらとも言えない	87
無回答	8



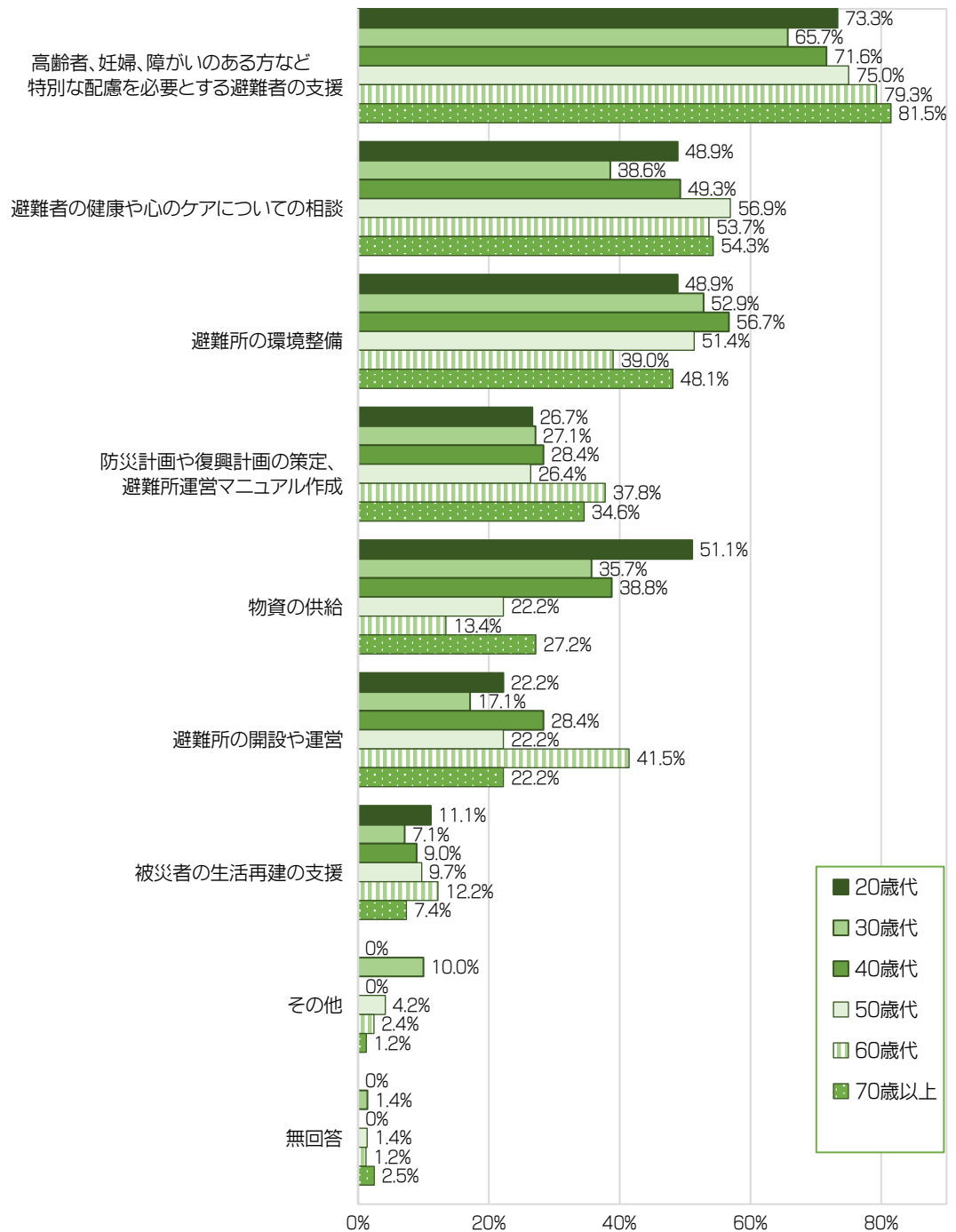
男女別では「重要だと思う」の割合は女性68.8%、男性83.4%で、14.6ポイントの差となっています。また年代が上がるにつれ、「重要だと思う」の割合が増加しています。

防災・災害復興対策において、女性の視点が必要なところはどこだと思うか。(3つまで)

	回答数
高齢者、妊婦、障がいのある方など特別な配慮を必要とする避難者の支援に関わること	312
避難者の健康や心のケアについての相談に関わること	211
避難所の環境整備に関わること	205
防災計画や復興計画の策定、避難所運営マニュアル作成などに関わること	128
物資の供給に関わること	123
避難所の開設や運営に関わること	109
被災者の生活再建の支援に関わること	39
その他	13
無回答	5



防災において女性の視点が必要なところ(年代別)



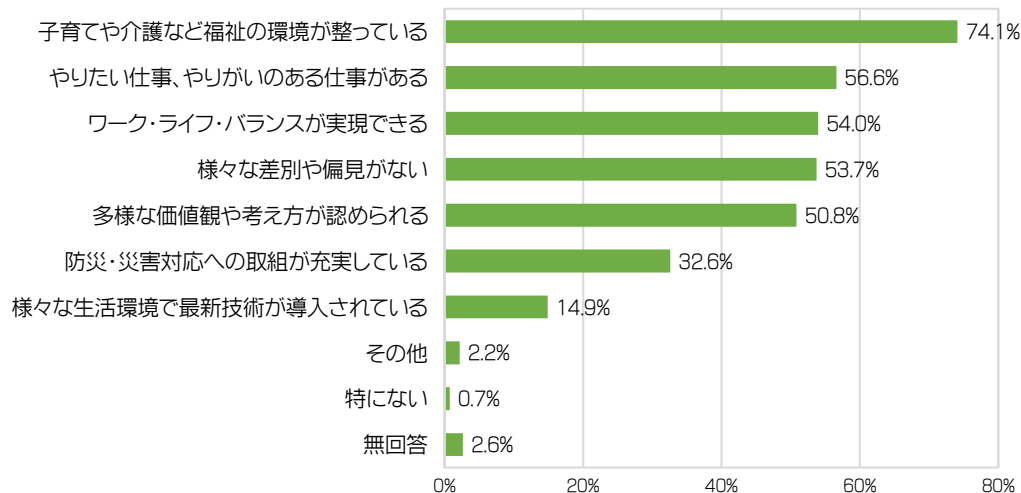
「高齢者、妊婦、障がいのある方など特別な配慮を必要とする避難者の支援に関わること」が、男女年代別を問わず最も高い割合になっています。「物資の供給」では男性が19.9%、女性37.2%と17.3ポイント差があります。「避難所の開設や運営に関わること」では、男性が34.8%女性が19.2%と15.6ポイント差があります。30代、40代では「避難所の環境整備に関わること」が「高齢者、妊婦、障がいのある方など特別な配慮を必要とする避難者の支援に関わること」に次いで多くなっています。

## 魅力ある地域づくりについて

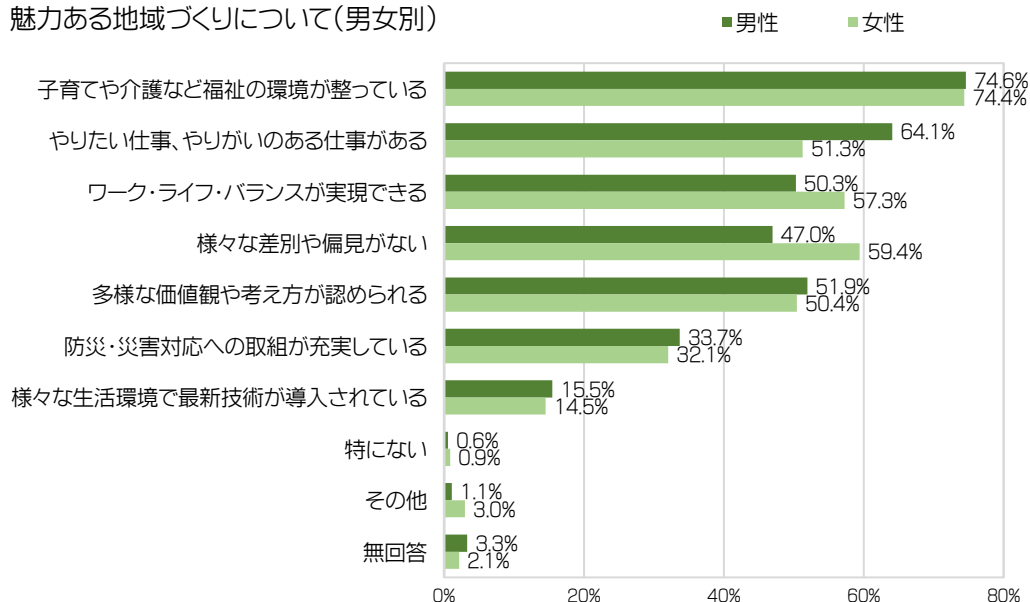
年代・性別・国籍などにとらわれず、誰もが自分らしく生きられる伊那市を実現するためには、どのようなことが重要だと思うか。（複数回答可）

	回答数
子育てや介護など福祉の環境が整っている	311
やりたい仕事、やりがいのある仕事がある	238
ワーク・ライフ・バランスが実現できる	226
様々な差別や偏見がない	224
多様な価値観や考え方が認められる	212
防災・災害対応への取組が充実している	136
様々な生活環境で最新技術が導入されている	62
特にない	3
その他	9
無回答	11

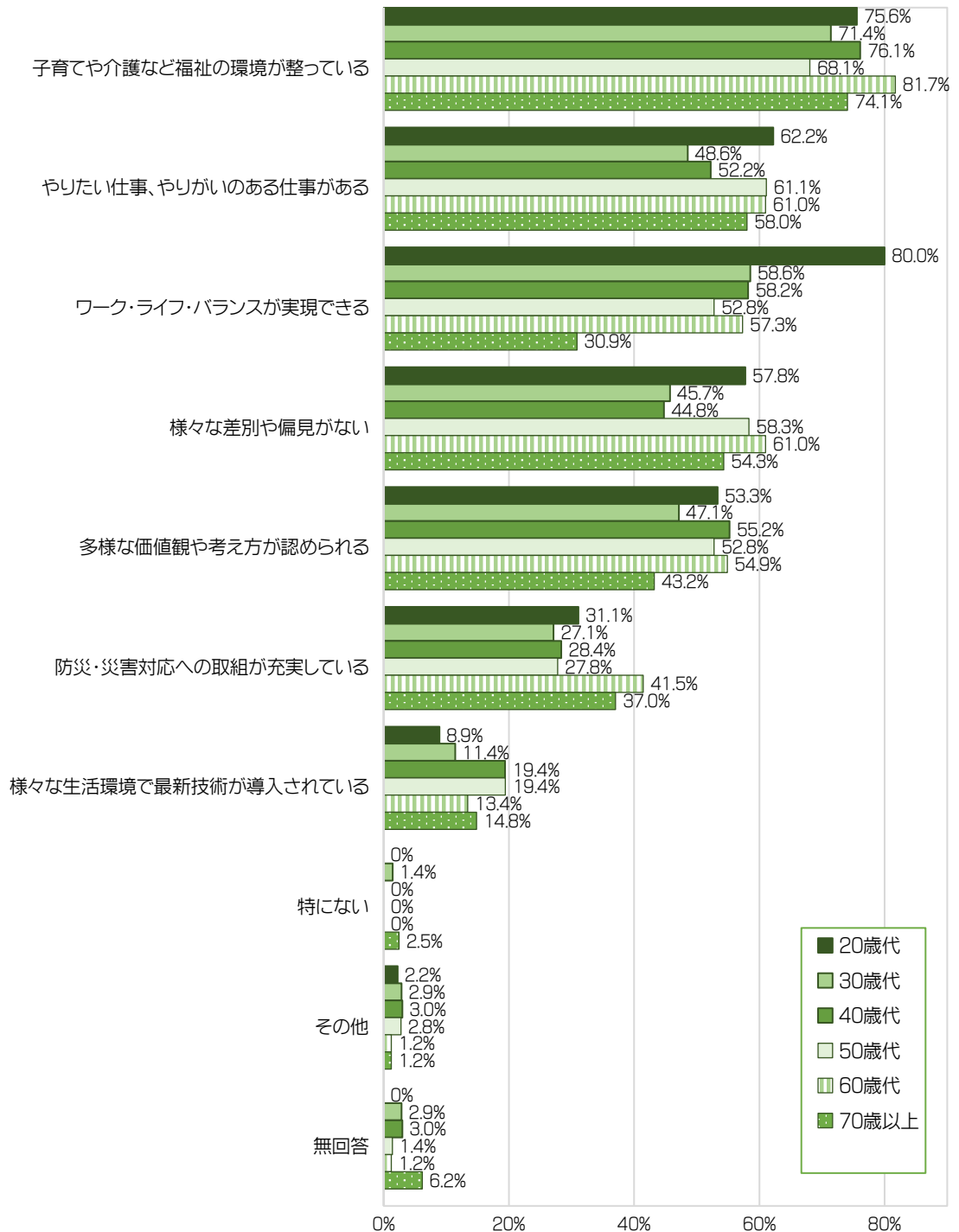
### 魅力ある地域づくりについて



### 魅力ある地域づくりについて(男女別)



魅力ある地域づくりについて(年代別)



「子育てや介護など福祉の環境が整っている」が全体では最も高い割合になっています。「やりたい仕事、やりがいのある仕事がある」は男性が女性を12.8ポイント上回っています。「様々な差別や偏見がない」は女性が男性を12.4ポイント上回っています。20代では「ワーク・ライフ・バランスが実現できる」が80.0%と最も多くなっています。

参考 魅力ある地域づくりについて(男女・年代別)

